

第1章

斑鳩町の現状と都市づくりの課題

第1章 斑鳩町の現状と都市づくりの課題

1. 斑鳩町の現状

(1) 斑鳩町の位置と成り立ち

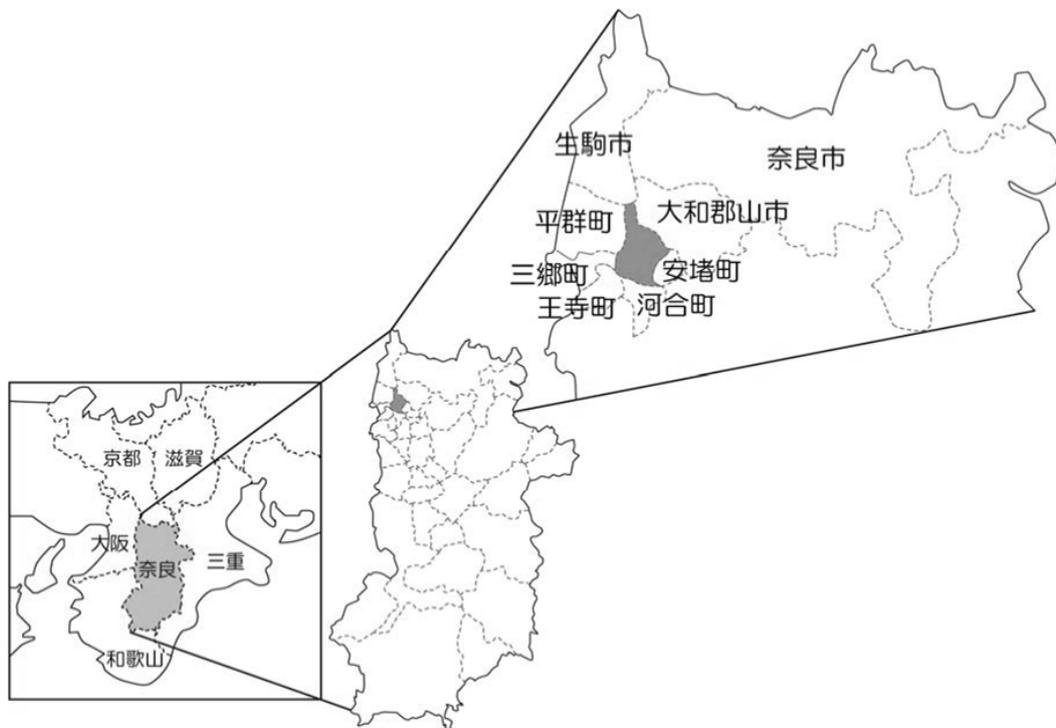
本町の行政区域は南北 6.4km、東西 4.4km、面積 14.27k m²のコンパクトな町で、奈良県の北西部を占める奈良盆地の北西部、矢田丘陵の南にわたる地域に位置しています。

町の四周は、北部に生駒市、北東部に大和郡山市、南東部に安堵町、南部に河合町、南西部に王寺町、西部には三郷町、平群町と隣接し、大阪市へは約 25km、奈良市へは約 15km の距離にあります。

大阪市、奈良市とは本町唯一の鉄道駅となるJR法隆寺駅からJR関西本線によって結ばれています。また、本町の南側には、大和川をへだてて西名阪自動車道の法隆寺インターチェンジが位置しており、広域と結ばれています。

本町は、昭和 22 (1947) 年に龍田町、法隆寺村、富郷村の 3 町村が合併してできた町であり、法隆寺を中心に栄えた西里や東里をはじめとする門前町、龍田など旧街道に沿って発展した街道町、そして、平地部を中心に点在する農家集落で構成されていました。

昭和 30 年代の後半から急激な都市化の波が押し寄せ、農地の宅地化がすすみ、現在では市街地の大半において戸建住宅が建ち並んでいます。また、近年では、戸建住宅と比較すると数は少ないものの、一部、マンションの立地もみられます。

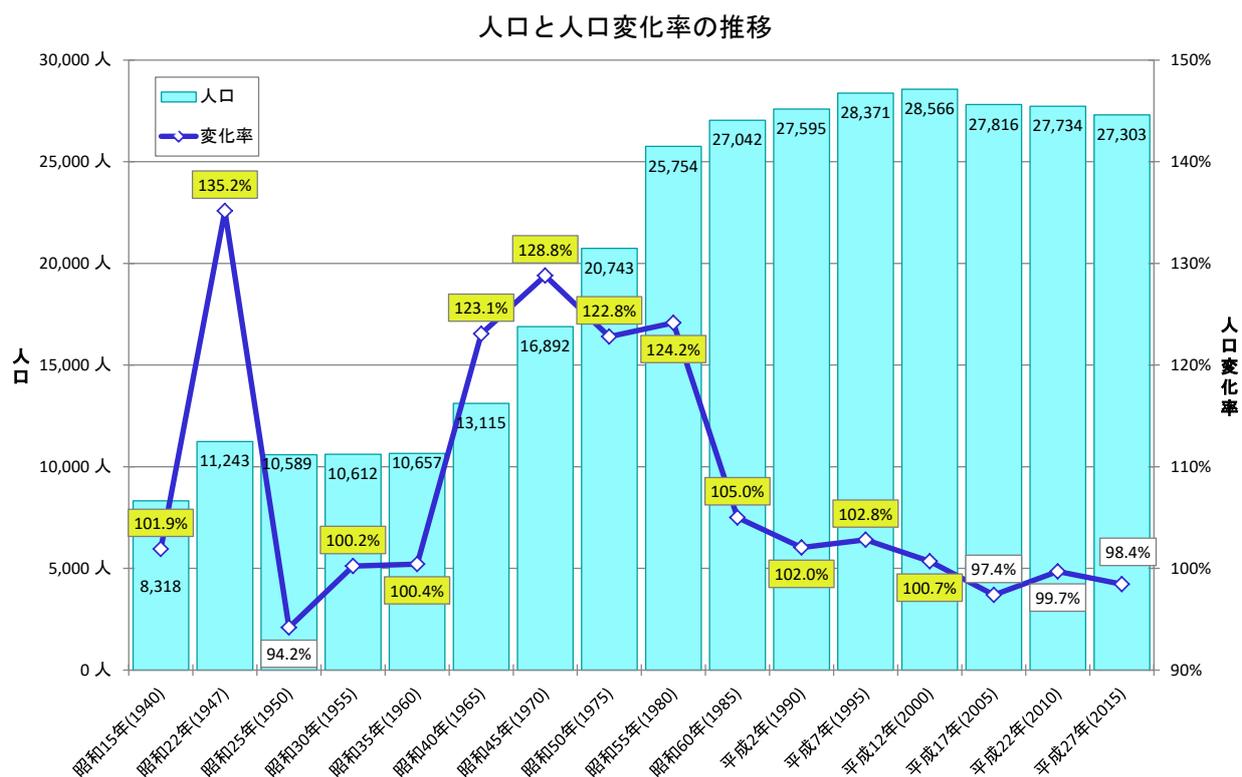


(2) 人口と世帯の推移

① 総人口の推移

斑鳩町の人口は、ベビーブーム等とともに昭和 22（1947）年に人口が大きく増加し、その後、高度経済成長を背景に、昭和 40（1965）年から昭和 55（1980）年にかけて大きく増加しました。

平成 12（2000）年に 28,566 人でピークを迎えた後は緩やかな減少に転じ、平成 27（2015）年には 27,303 人となっています。



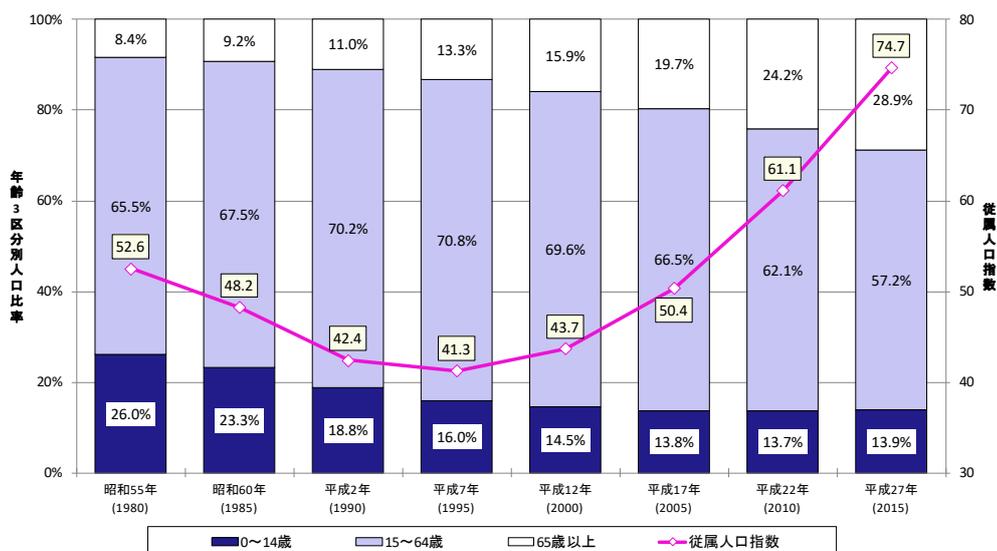
資料：国勢調査

② 人口構成比の推移

年齢3区分別の人口構造の推移をみると、65歳以上の老年人口の割合が昭和55(1980)年から平成27(2015)年までの35年間で20.5ポイント増加している一方で、0～14歳の年少人口の割合は12.1ポイント減少しており、少子高齢化が進行しています。

従属人口指数は、平成7(1995)年に減少のピークを迎えた後増加に転じ、平成27(2015)年には74.7と過去10年において特に大きく増加しています。

年齢3区分別人口構造と従属人口指数の推移



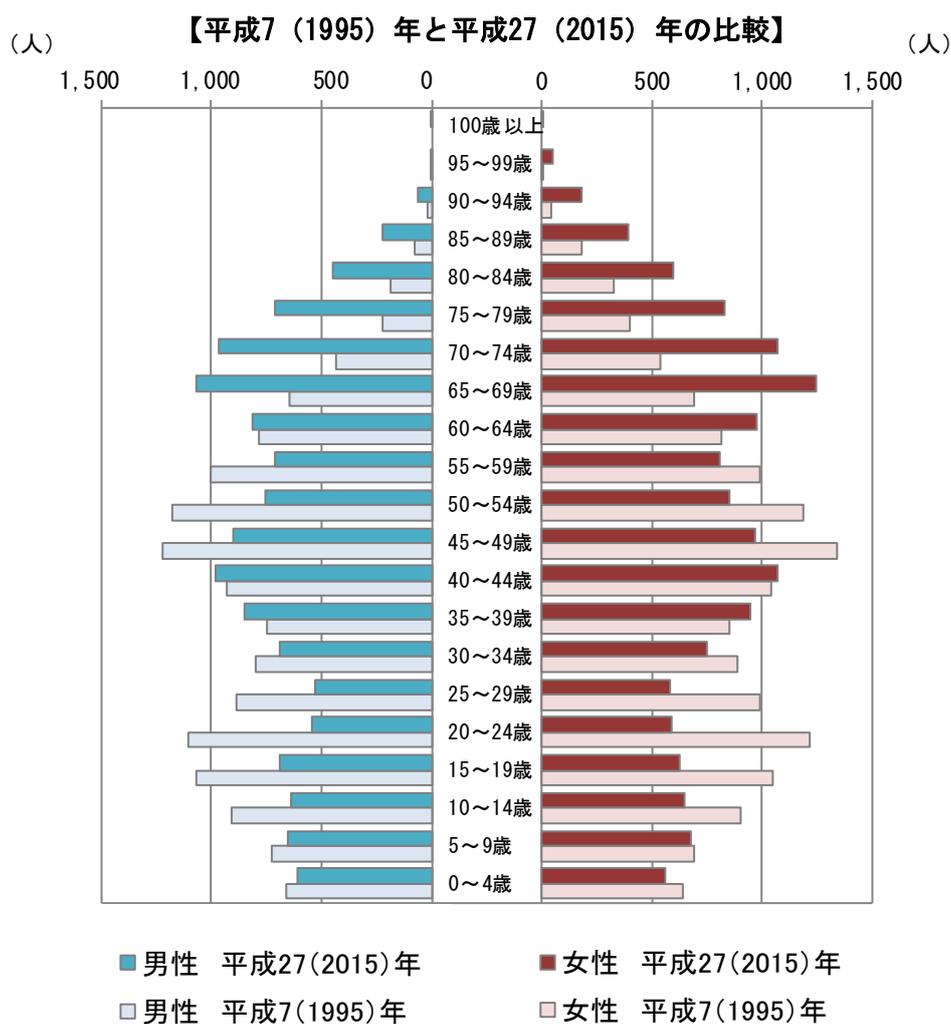
資料：国勢調査

従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

人口ピラミッドの形状をみると、斑鳩町では、全国と同様に、少子高齢化がすすんだ社会に見られる「つぼ型」と呼ばれる形状になっています。

平成 27（2015）年の5歳階級別人口構造をみると、平成 7（1995）年と比べ、団塊の世代*である65歳から74歳の人口が突出して多くなっており、少子高齢化の進行が加速するものと予測されます。

5歳階級別人口構造



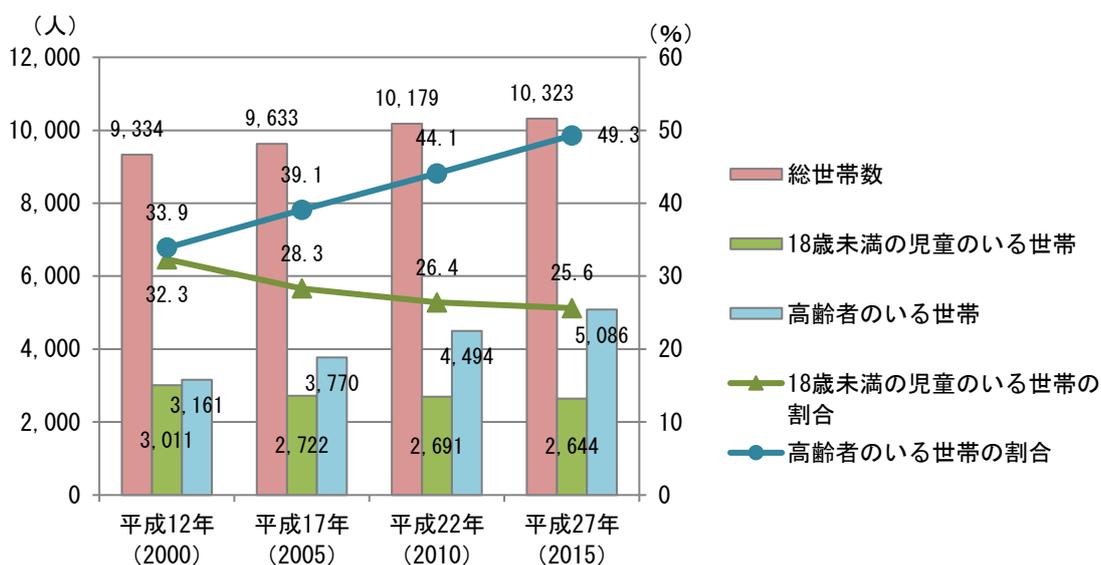
資料：国勢調査

③ 世帯の推移

斑鳩町の総世帯数は増加傾向にあります。また、同様に高齢者（65歳以上）のいる世帯も増加しており、平成27（2015）年には5,086世帯、全体の49.3%が高齢者のいる世帯となっています。そのうち高齢夫婦のみの世帯が17.0%、高齢者ひとり暮らし世帯が11.0%と増加しています。

一方で、18歳未満の児童のいる世帯数は、平成12（2000）年以降は減少傾向にあります。平成27（2015）年には2,644世帯、全体の25.6%が18歳未満の児童のいる世帯となっています。

総世帯数と18歳未満の児童または高齢者のいる世帯の推移



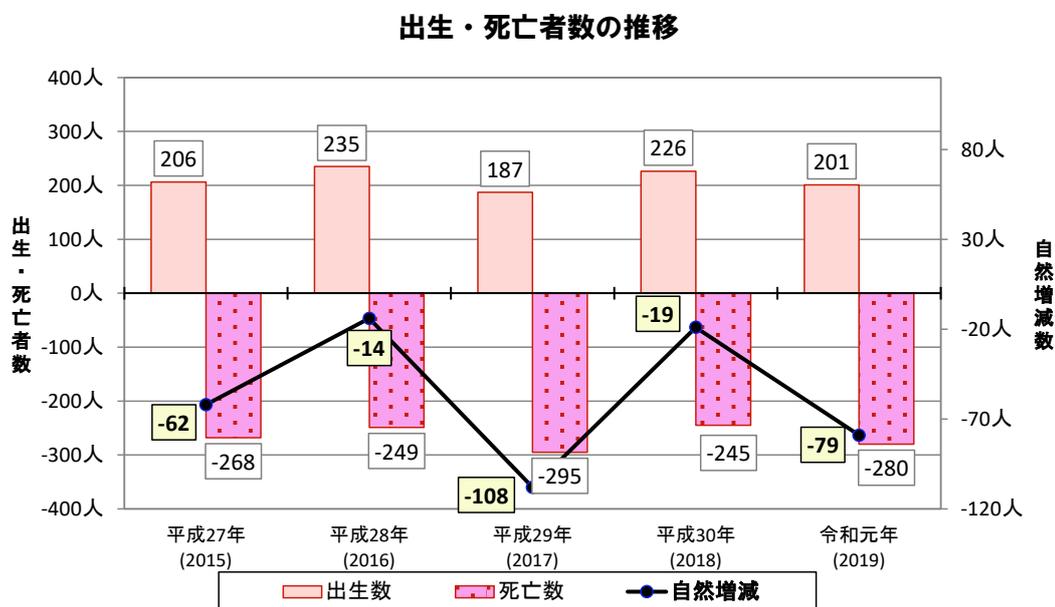
資料：国勢調査

	平成12（2000）年		平成17（2005）年		平成22（2010）年		平成27（2015）年	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
総世帯数	9,334	100.0	9,633	100.0	10,179	100.0	10,323	100.0
18歳未満の児童のいる世帯	3,011	32.3	2,722	28.3	2,691	26.4	2,644	25.6
高齢者のいる世帯	3,161	33.9	3,770	39.1	4,494	44.1	5,086	49.3
高齢者ひとり暮らし世帯	464	5.0	641	6.7	880	8.6	1,137	11.0
高齢夫婦のみの世帯	602	6.4	894	9.3	1,202	11.8	1,757	17.0
その他の高齢者世帯	2,095	22.4	2,235	23.2	2,412	23.7	2,192	21.2

資料：国勢調査

④ 自然動態の推移

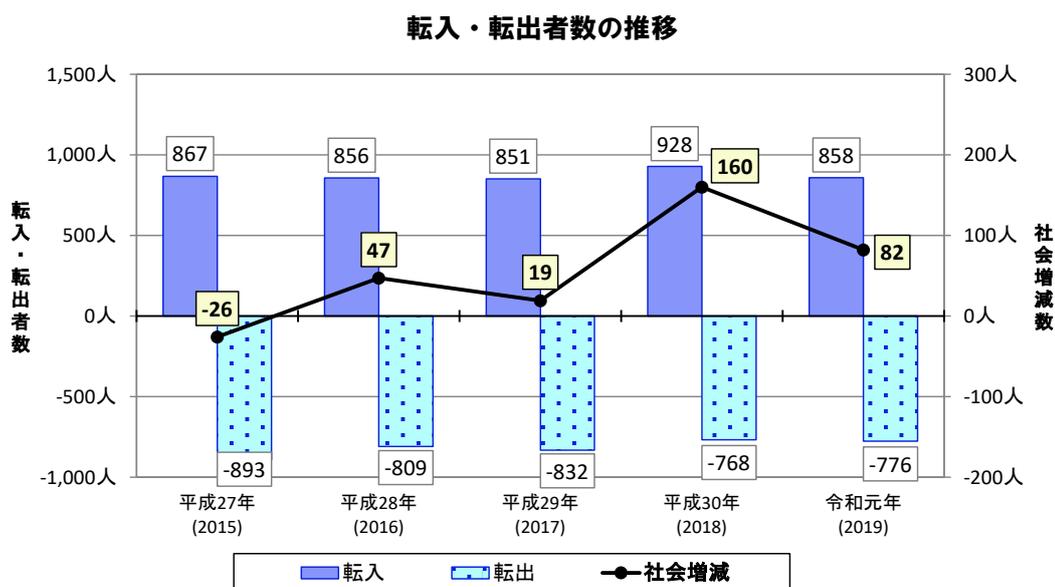
平成 27 (2015) 年～令和元 (2019) 年の5年間の出生・死亡者数をみると、出生数・死亡者数ともに増減を繰り返しながら推移していますが、自然増減数については一貫して自然減となっており、令和元 (2019) 年には 79 人の自然減となっています。



資料：人口動態統計

⑤ 社会動態の推移

平成 27 (2015) 年～令和元 (2019) 年の5年間の転入・転出者数をみると、転入者数、転出者数ともに増減を繰り返しながら推移しています。社会増減数については、平成 28 (2016) 年以降社会増で推移しており、令和元 (2019) 年には 82 人の社会増となっています。

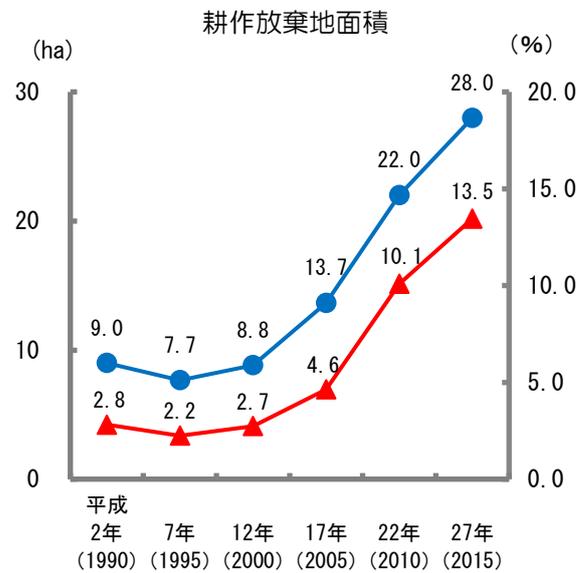
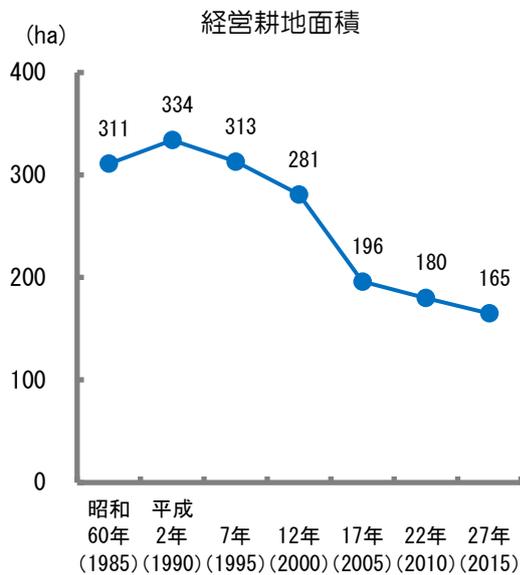
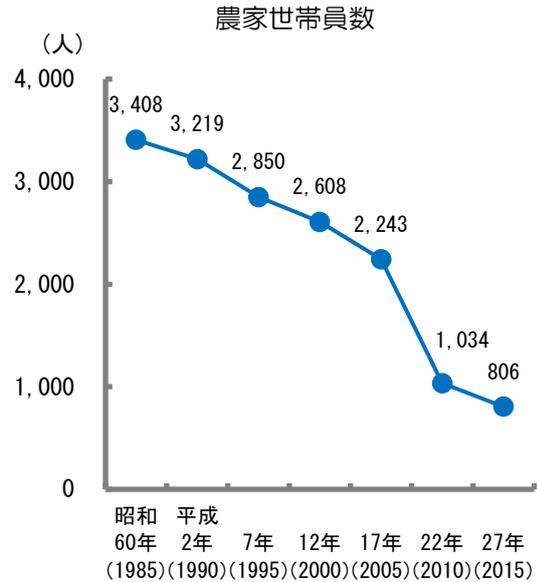
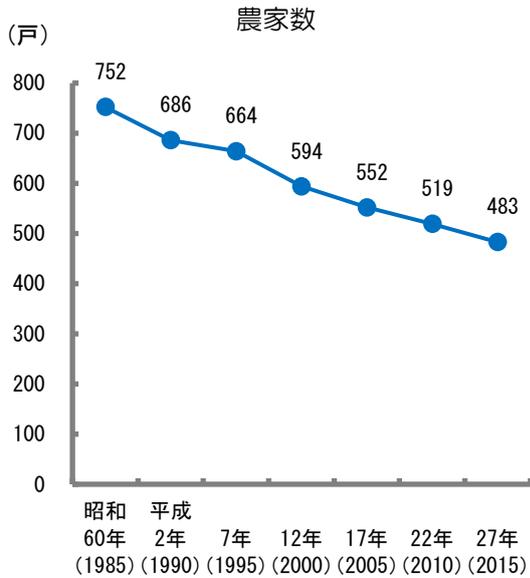


資料：住民基本台帳人口移動報告

(3) 産業の状況

① 農業の状況

平成 27(2015)年時点の農家数は 483 戸、農家世帯員数は 806 人となっています。農家数および農家世帯員数は減少傾向となっており、それにともない、経営耕地 *面積も減少傾向にある一方、耕作放棄地は増加傾向にあります。



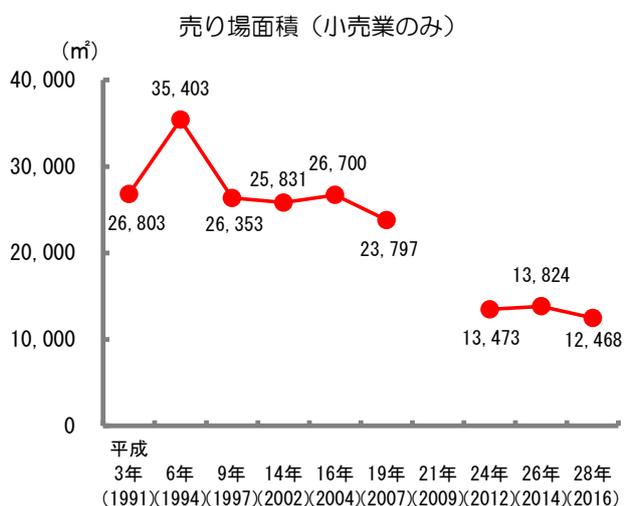
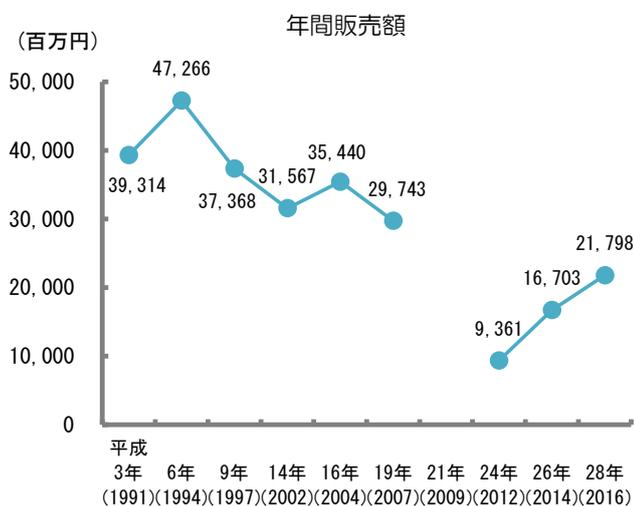
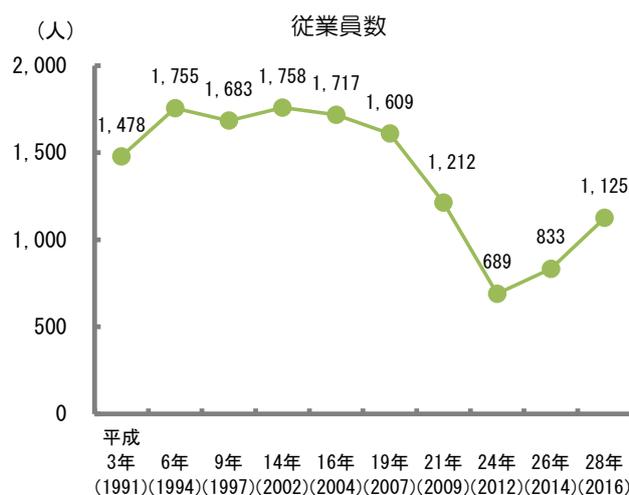
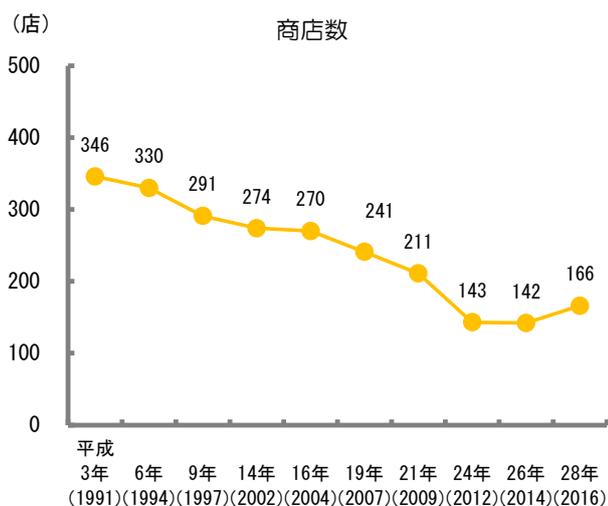
● 耕作放棄地面積 ▲ 耕作放棄率

資料：農林業センサス

② 商業の状況

平成 28（2016）年時点の商業（卸売り業・小売業）に関する商店数は 166 店、従業員数は 1,125 人、年間販売額は 21,798 百万円となっています。

平成 21（2009）年以降調査対象、調査方法、分類方法等に変更があったため、平成 19（2007）年までのデータとは単純に比較できないものの、商店数、従業員数、年間販売額、売り場面積ともに平成 19（2007）年から平成 24（2012）年にかけて減少してきましたが、売り場面積を除き平成 26（2014）年以降は増加しています。



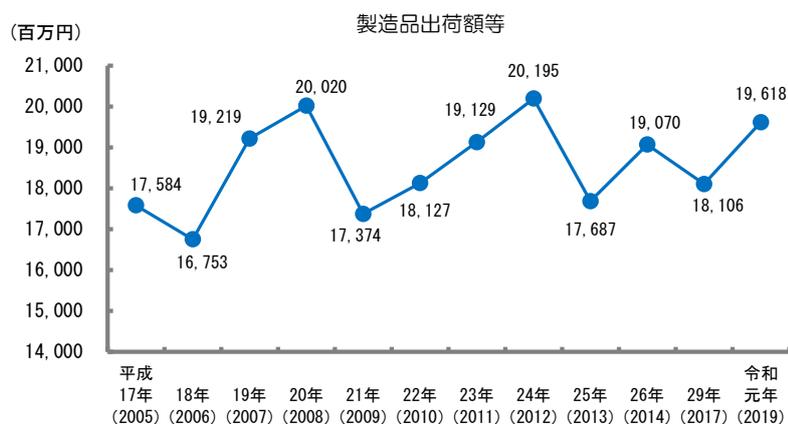
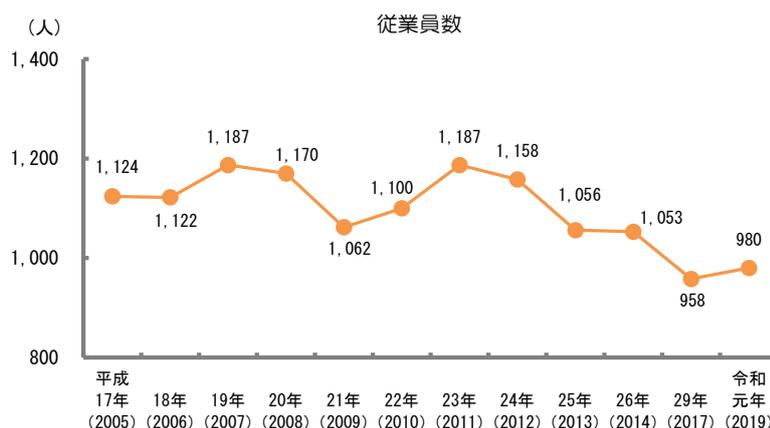
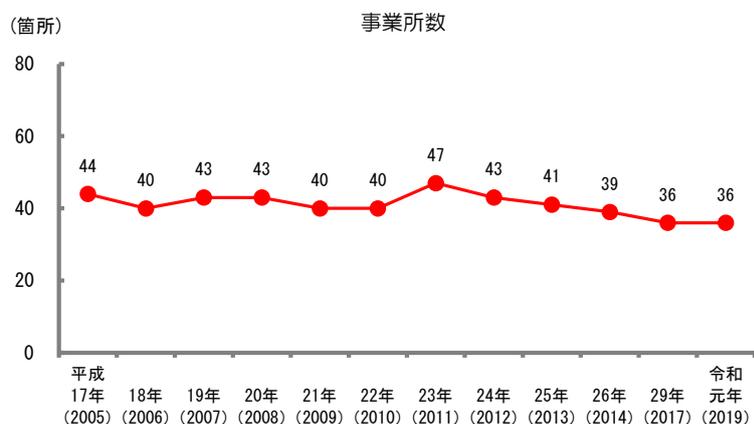
資料：商業統計調査、経済センサス

注：平成 21（2009）年の「経済センサス基礎調査」では年間販売額、売場面積については調査項目なし。

③ 製造業の状況

令和元（2019）年時点の事業所数は36事業所、従業者数は980人、製造品出荷額等は19,618百万円となっています。

従業員数、製造品出荷額等とも増減を繰り返しながら推移してきましたが、令和元（2019）年には増加しています。

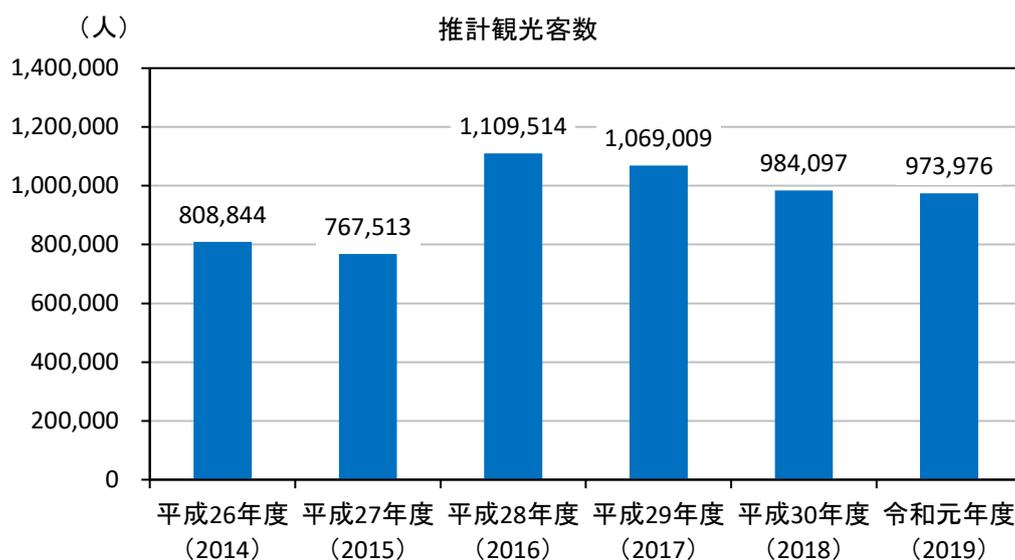


資料：工業統計調査

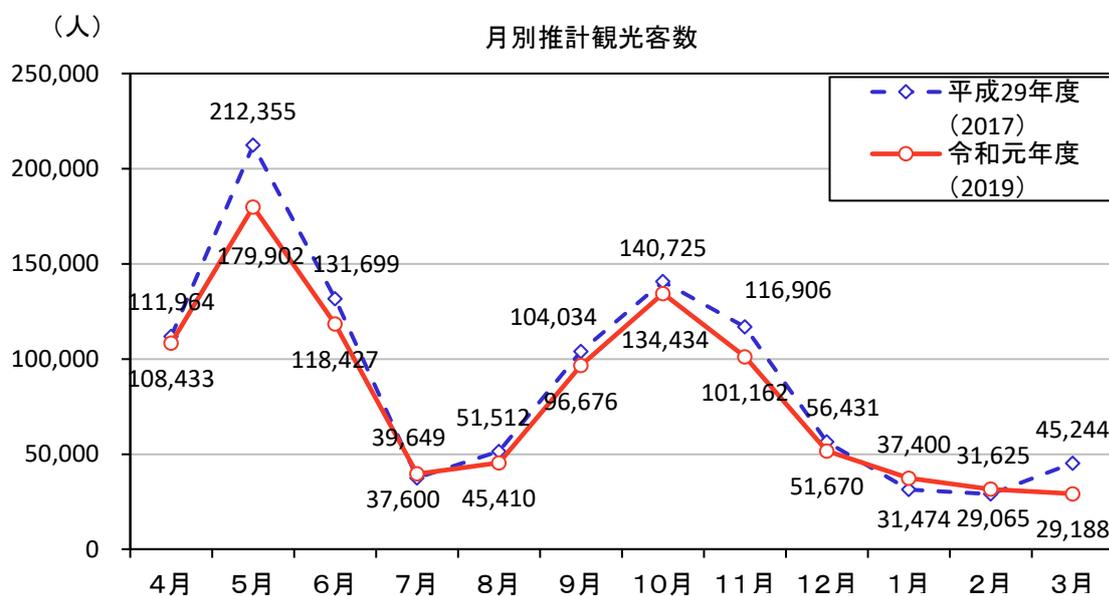
④ 観光の状況

本町の推計観光客数は、平成 28（2016）年度に推計観光客数の計算方法を国の計算方法に合わせたことから大きく変化しています。その後減少傾向で推移し、令和元（2019）年度には約 97 万 4 千人となっています。

月別の推計観光客数としてみると、5月が最も多く、次いで 10月となっており、春と秋のシーズン型観光地となっています。



資料：斑鳩町まちづくり政策課



資料：斑鳩町まちづくり政策課

(4) 土地利用の状況および規制

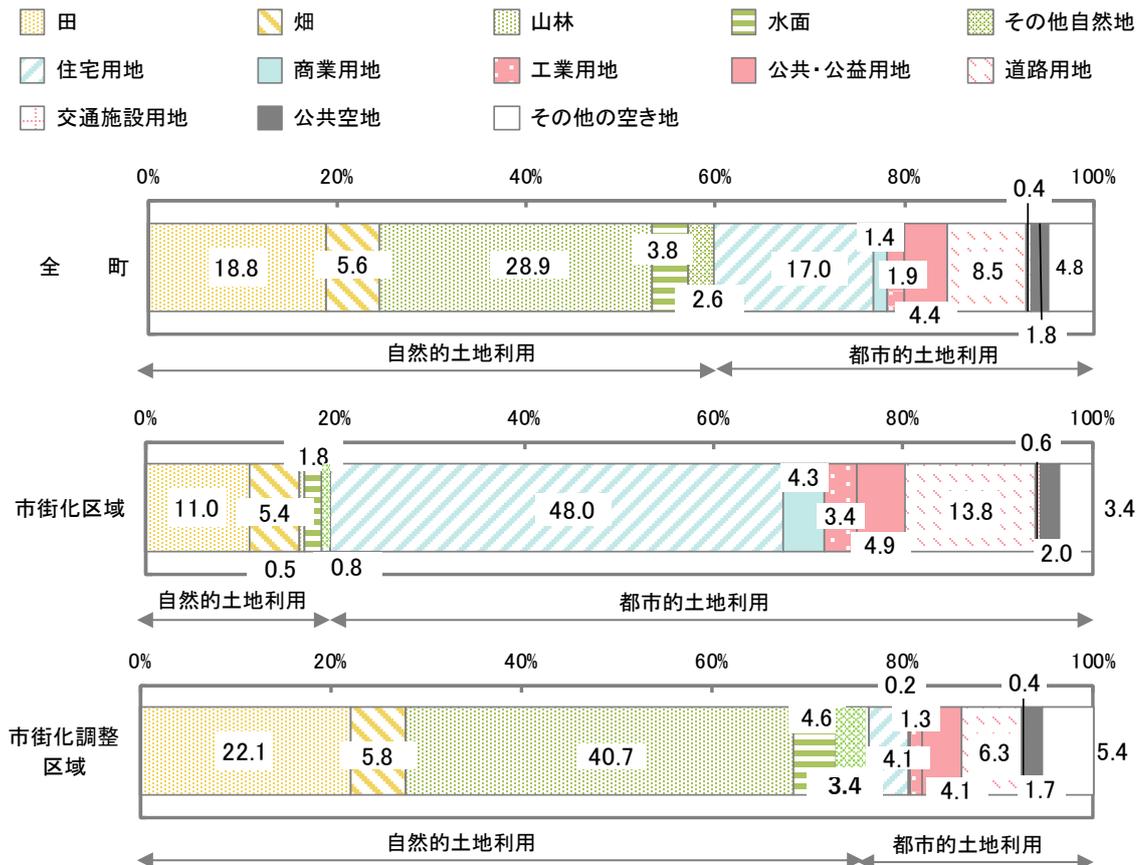
本町の土地利用の状況は、山林が3割、田、畑、水面等が3割、住宅用地、道路用地等、都市的な利用が4割程度と、バランスの取れた土地利用がなされています。

本町は、行政区域全域が大和都市計画区域*に含まれ、市街化区域*と市街化調整区域*との線引きがなされており、町域に対する割合は、市街化区域*が約3割、市街化調整区域*が約7割となっています。

市街化区域*において指定されている用途地域*は、そのほとんどが住居系となっています。住居系の用途地域*以外には、近隣商業地域*と準工業地域*の指定がなされています。

本町北部の山林部は、矢田斑鳩近郊緑地保全区域*、平群谷環境保全地区*および県立矢田自然公園*に指定されています。また、山林部の南部から法隆寺周辺を含む山すそまでと竜田川から三室山にかけての一带は、風致地区*に指定されており、さらに重ねて、法隆寺の境内地とその裏山は歴史的風土特別保存地区*に、その周辺部は歴史的風土保存区域*に指定され、自然環境や歴史的風土の保全がはかられています。

土地利用割合

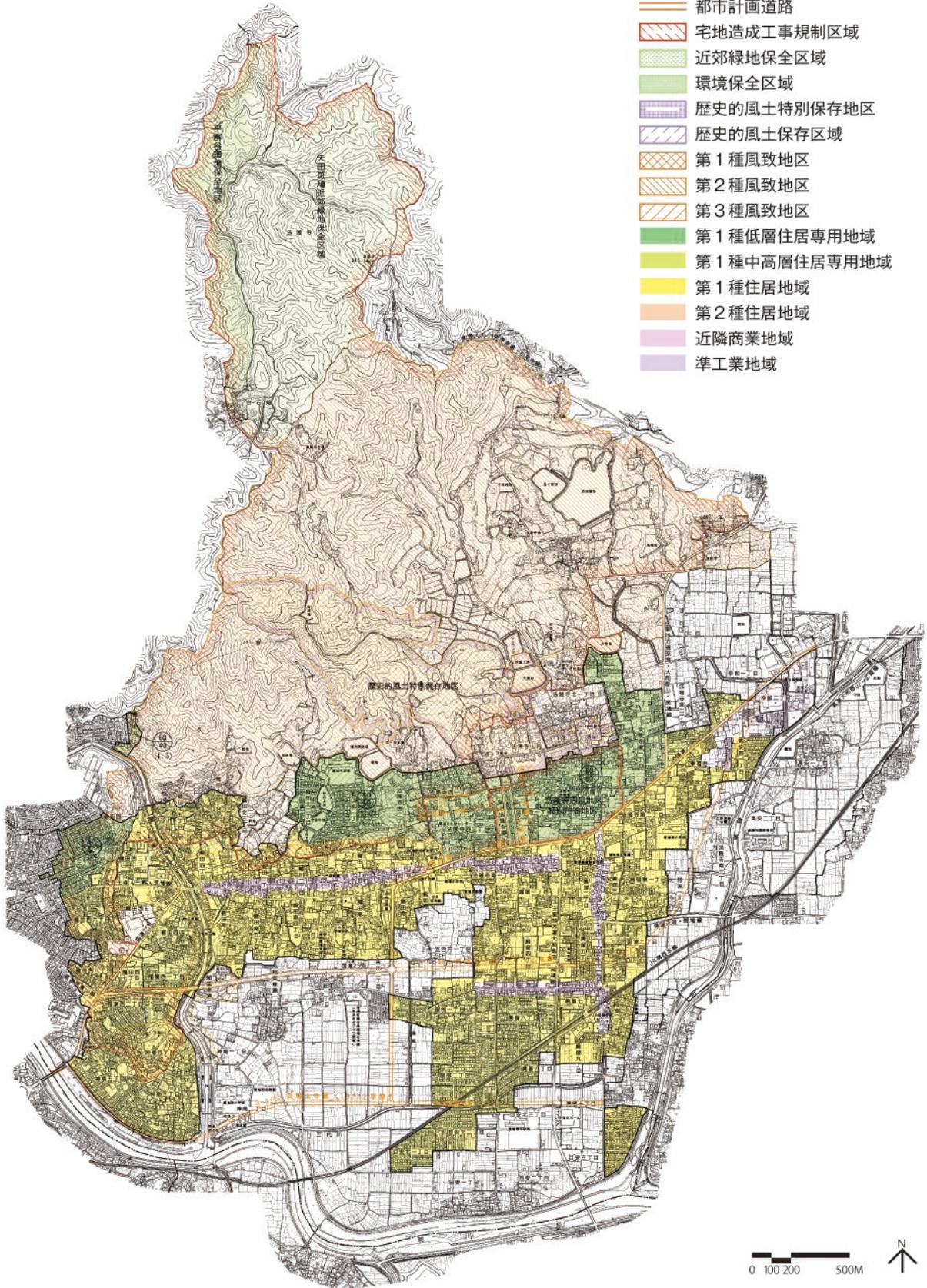


資料：平成 26（2014）年都市計画基礎調査

斑鳩町都市計画図

凡例

-  市街化区域
-  都市計画道路
-  宅地造成工事規制区域
-  近郊緑地保全区域
-  環境保全区域
-  歴史的風土特別保存地区
-  歴史的風土保存区域
-  第1種風致地区
-  第2種風致地区
-  第3種風致地区
-  第1種低層住居専用地域
-  第1種中高層住居専用地域
-  第1種住居地域
-  第2種住居地域
-  近隣商業地域
-  準工業地域



都市計画および各種法適用状況

区分	面積 (ha)	構成比 (%)	備考
都市計画区域 *	1,427.0	100.0	都市計画法
市街化区域 *	418.2	29.3	都市計画法
市街化調整区域 *	1,008.8	70.7	都市計画法
用途地域 *	418.2	29.3	都市計画法
第1種低層住居専用地域 *	94.2	6.6	
第1種中高層住居専用地域 *	129.3	9.1	
第1種住居地域 *	153.1	10.7	
第2種住居地域 *	3.6	0.3	
近隣商業地域 *	24.1	1.7	
準工業地域 *	13.9	1.0	
法隆寺周辺地区特別用途地区 *	24.9	1.7	都市計画法
高度地区 *	324.0	22.7	都市計画法
準防火地域 *	24.1	1.7	都市計画法
風致地区 *	628.4	44.0	斑鳩町風致地区条例 *
第1種風致地区	80.9	5.7	
第2種風致地区	376.3	26.4	
第3種風致地区	171.2	12.0	
歴史的風土特別保存地区 *	80.9	5.7	古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法
歴史的風土保存区域 *	536.0	37.6	古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法
県立矢田自然公園 *	61.0	4.3	自然公園法
平群谷環境保全地区 *	34.0	2.4	自然環境保全法
矢田斑鳩近郊緑地保全区域 *	124.5	8.7	近畿圏の保全区域の整備に関する法律

(令和2年3月31日現在)

(5) 都市基盤・生活基盤の整備状況

① 都市施設の整備状況

本町において、都市計画決定されている都市施設（道路を除く）は以下の表のとおりです。

都市施設一覧

種類	名称	都市計画 決定年月日	都市計画決定事項
公園	ふるさと上宮歴史公園 (上宮遺跡公園)	H3. 11. 12	面積=約 0. 6ha
緑地 *	大和川第一緑地	S47. 12. 26(当初) S48. 8. 28(変更後)	面積=約 4. 1ha(当初) 面積=約 29. 4ha(変更後)
緑地 *	竜田川緑地	S57. 12. 21(当初) H8. 10. 25(変更後)	面積=約 13. 9ha(当初) 面積=約 14. 0ha(変更後)
広場	法隆寺門前広場	S45. 12. 23	面積=約 0. 5ha
汚物処理場	斑鳩町汚物処理場	S51. 8. 6	面積=約 0. 39ha 処理能力=36kl/日
ごみ焼却場	斑鳩町衛生処理場 ※	S55. 12. 2	面積=約 0. 5ha 処理能力=40 t / 日
ごみ処理施設	斑鳩町ごみ破砕処理場 ※	S58. 11. 7	面積=約 0. 2ha 処理能力=10t/日
火葬場	斑鳩町火葬場	H6. 8. 3	面積=約 0. 6ha 火葬炉 3 基
自転車駐車場	斑鳩町法隆寺駅前自転車 駐車場	S55. 12. 2	面積=約 0. 06ha 収用台数=250 台

※令和 2 年 3 月 31 日現在、休止
(令和 2 年 3 月 31 日現在)

② 都市計画道路の整備状況

本町において、都市計画決定されている道路は5路線となっています。

このうち、「法隆寺門前線」および「法隆寺藤ノ木線」は整備が完了しています。

「郡山斑鳩王寺線」は国の直轄事業（いかるがパークウェイ）として整備がすすめられており、小吉田モデル区間(約400m)とモデル区間に隣接する稲葉車瀬区間(約700m)の整備が完了しています。また、三室紅葉ヶ丘区間についても整備がすすみ、本線部分の一部(約400m)が供用開始しています。

「法隆寺線」は、680mの整備が完了しています。

「安堵王寺線」は未着手となっています。

都市計画道路整備率

名称	計画決定 年月日	計画幅員	計画延長 (A)	供用延長(B)	整備率 (B/A)
郡山斑鳩王寺線 (いかるがパークウェイ)	(当初) S42. 8. 25 (変更) H28. 12. 9	18m～22m	(当初) 5,250m (変更後) 5,150m	1,500m (うち一部供用 400m)	29.13%
法隆寺線	S42. 8. 25	16m	3,300m	680m	20.61%
安堵王寺線	S42. 8. 25	16m～18m	2,950m	0m	0%
法隆寺門前線	S42. 8. 25	52m	360m	360m	100%
法隆寺藤ノ木線	H11. 11. 8	3.0m～6.2m	527m	527m	100%

(令和2年3月31日現在)

③ 公園の整備状況

都市公園が 48 箇所、面積は約 19ha で一人当たりの公園面積は 6.9 m²となっています。(平成 27 年国勢調査人口)この他、住宅開発などにともない整備された「子どもの広場」が 9 箇所、0.2ha あります。

都市計画決定がなされている公園は、「ふるさと上宮歴史公園（上宮遺跡公園）」の 1 箇所、緑地*は「大和川第一緑地」、「竜田川緑地」の 2 箇所、広場は、「法隆寺門前広場」の 1 箇所となっています。

都市公園・子どもの広場の状況

区分	箇所数 (箇所)	合計面積 (ha)	住民 1 人当りの 面積 (m ² /人)
都市公園	48	18.9	6.92
子どもの広場	9	0.2	0.08
合計	57	19.1	7.00

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

都市計画公園・緑地*等

区分	供用	
	箇所数 (箇所)	面積 (ha)
公園	1	0.6
緑地*	2	16.1
広場	1	0.4

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

④ 公共下水道の整備状況

公共下水道の都市計画決定区域約 485ha の内、事業認可区域は約 386ha です。そのうち供用区域は令和元（2019）年度時点で約 247ha で、普及率*は 63.4%、接続率*は 70.0%となっています。

公共下水道の概要

年別	全体計画区域内人口* (人) A	供用人口 (人) B	普及率* (%) B/A	接続人口 (人) C	接続率* (%) C/B
平成 25 年度 (2013)	28,375	13,126	46.3	8,553	65.2
平成 26 年度 (2014)	28,243	13,641	48.3	9,058	66.4
平成 27 年度 (2015)	28,204	14,597	51.8	9,788	67.1
平成 28 年度 (2016)	28,205	14,750	52.3	10,813	73.3
平成 29 年度 (2017)	28,301	15,659	55.3	10,898	69.6
平成 30 年度 (2018)	28,319	16,667	58.9	11,457	68.7
令和元年度 (2019)	28,164	17,846	63.4	12,484	70.0

※全体計画区域内人口は住民基本台帳人口を基に算出

2. 住民意向調査からみられる現状

(1) 調査の概要

① 調査の目的

町の将来を展望したまちづくりの基本となる「第5次斑鳩町総合計画」「斑鳩町都市計画マスタープラン」の策定作業の基礎資料として、調査を実施したものです。

② 調査対象

町内にお住まいの18歳以上の方2,000名を無作為抽出

③ 調査期間

平成30(2018)年12月4日から平成30(2018)年12月31日

④ 調査方法

郵送による配布・回収

⑤ 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
2,000通	813通	40.7%

⑥ その他

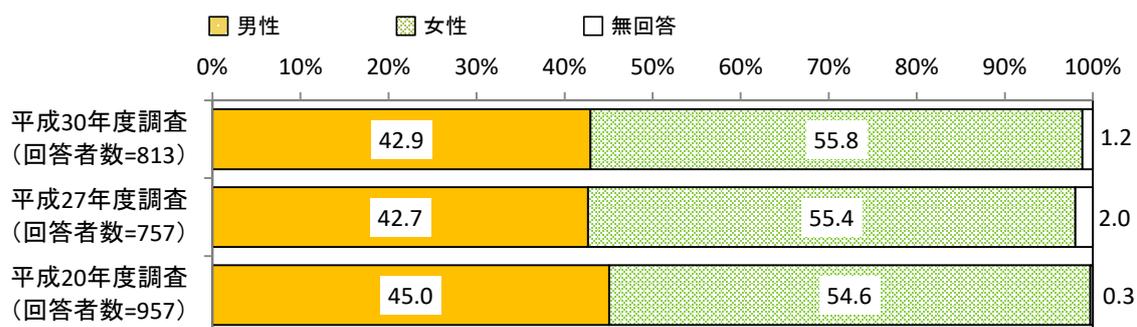
「平成20年度調査」と記載しているものについては「第4次斑鳩町総合計画」策定の基礎資料として、「平成27年度調査」と記載しているものについては「第4次斑鳩町総合計画・後期基本計画」策定の基礎資料として実施したアンケート調査を表しています。

(2) 調査結果

1) 回答者属性

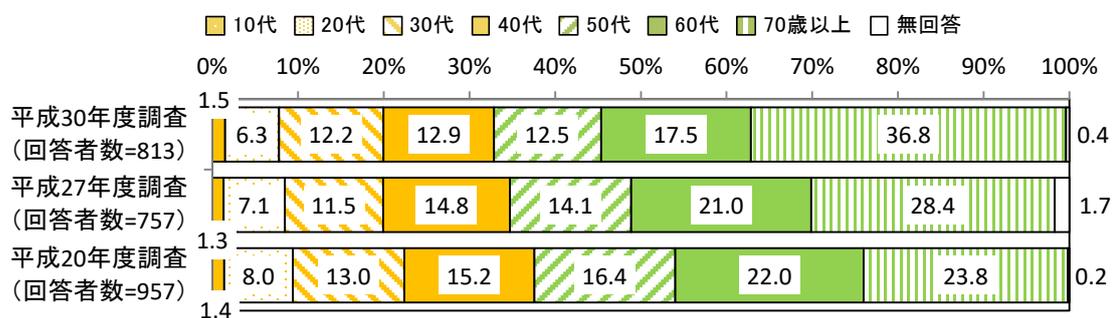
① 性別

「男性」の割合が42.9%、「女性」の割合が55.8%とやや女性が多くなっています。



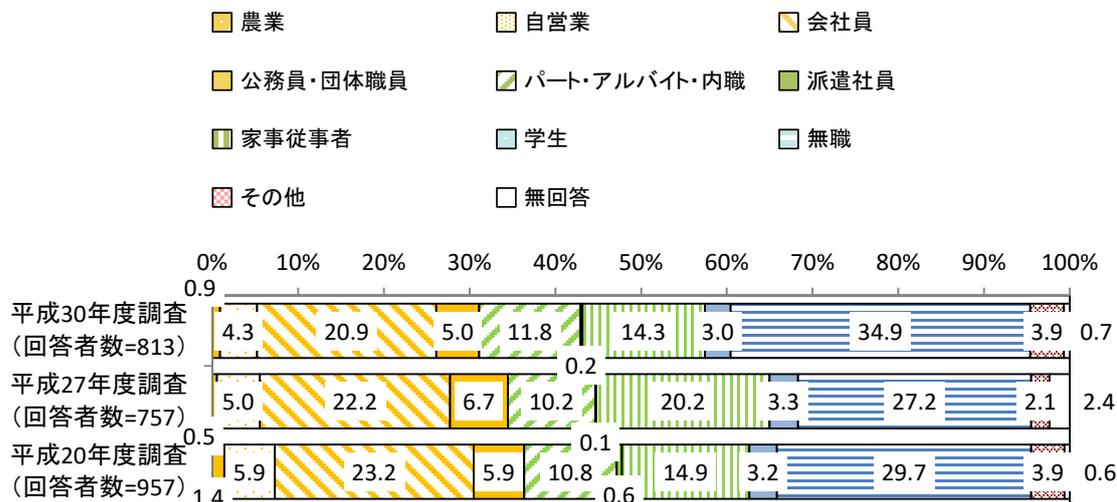
② 年齢

「70歳以上」の割合が36.8%と最も高く、次いで「60代」の割合が17.5%となっています。



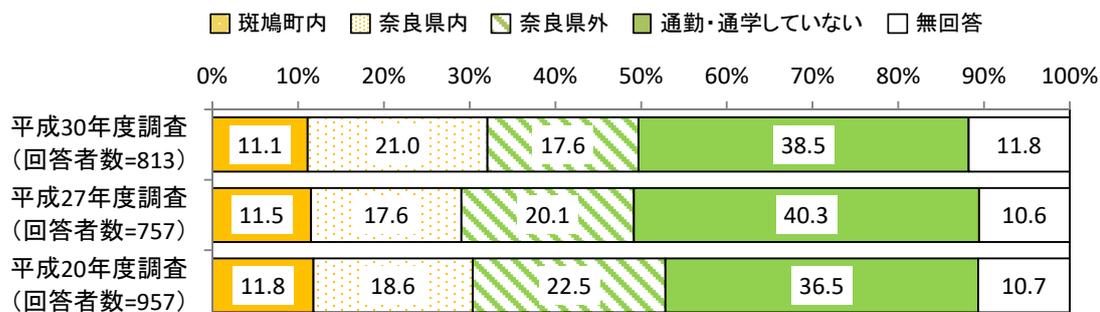
③ 職業

「無職」の割合が34.9%と最も高く、次いで「会社員」の割合が20.9%、「家事従事者」の割合が14.3%となっています。



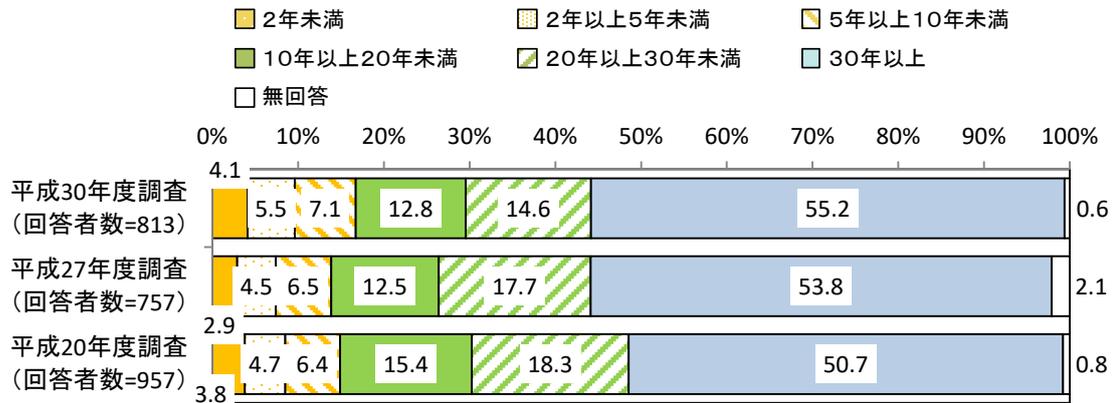
④ 通勤・通学地

「通勤・通学している（斑鳩町+奈良県内+奈良県外）」は49.7%で約半数を占め、「通勤・通学していない」の割合が38.5%となっています。



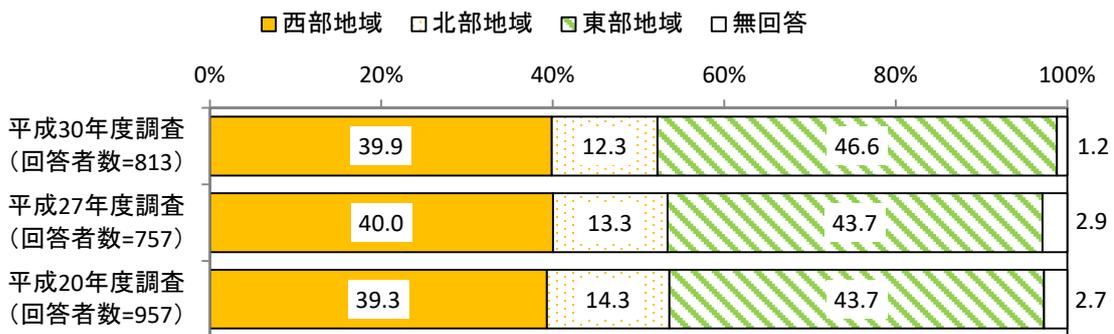
⑤ 居住年数

「30年以上」の割合が55.2%と最も高くなっています。



⑥ 居住地区

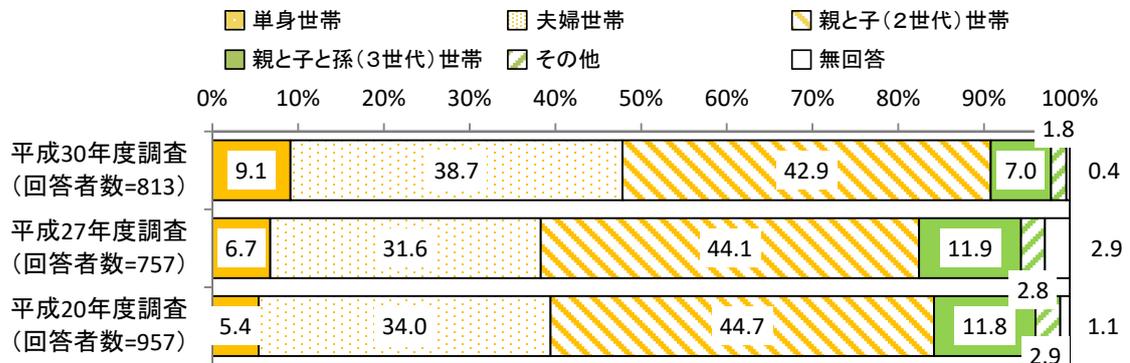
「東部地域」の割合が46.6%と最も高く、次いで「西部地域」の割合が39.9%、「北部地域」の割合が12.3%となっています。



地区	地域	人口構成
西部地域	龍田北、龍田、龍田西、龍田南 2～6丁目、小吉田 1～2丁目、稲葉車瀬、稲葉西、神南	41.8%
北部地域	法隆寺西、法隆寺、法隆寺山内、法隆寺北、法隆寺東、幸前 1丁目、大字三井、大字岡本、大字法隆寺	12.9%
東部地域	龍田南 1丁目、五百井、服部、法隆寺南、東福寺、興留、興留東、阿波、高安西、高安、大字高安、幸前 2丁目、目安、目安北、大字目安	45.3%

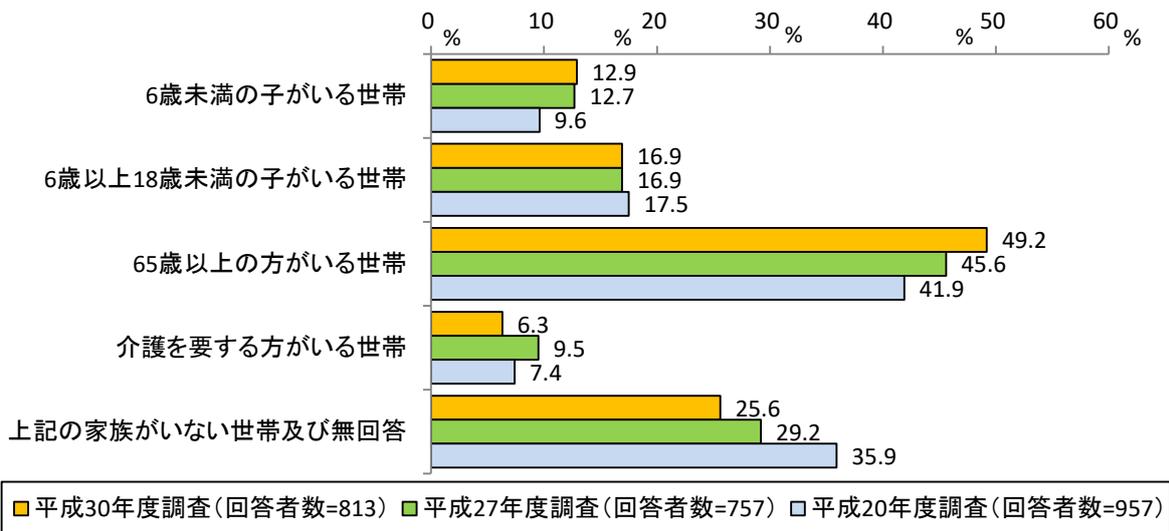
⑦ 世帯構成

「親と子（2世代）世帯」の割合が42.9%と最も高く、次いで「夫婦世帯」の割合が38.7%となっています。



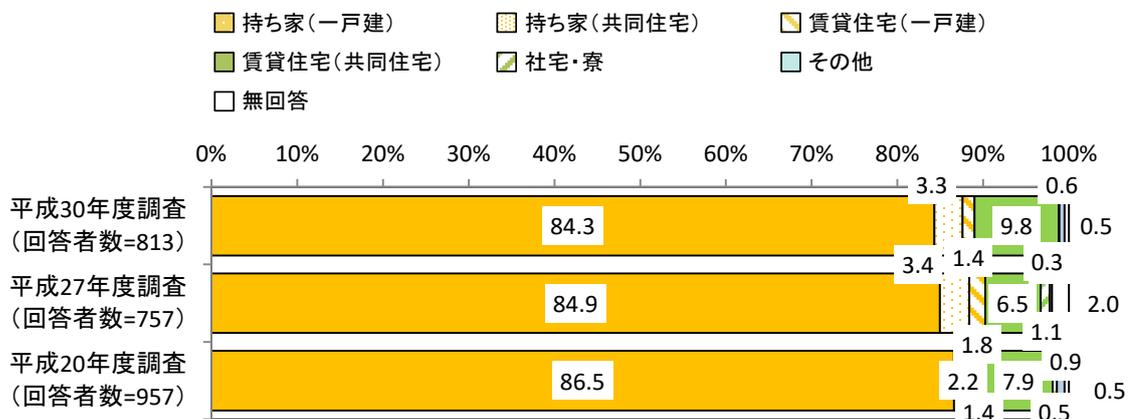
⑧ 家族の状況

「65歳以上の方がいる世帯」の割合が49.2%と高くなっています。また、「介護を要する方がいる世帯」の割合が6.3%となっています。



⑨ 住居の状況

「持ち家（一戸建）」の割合が84.3%と最も高くなっています。

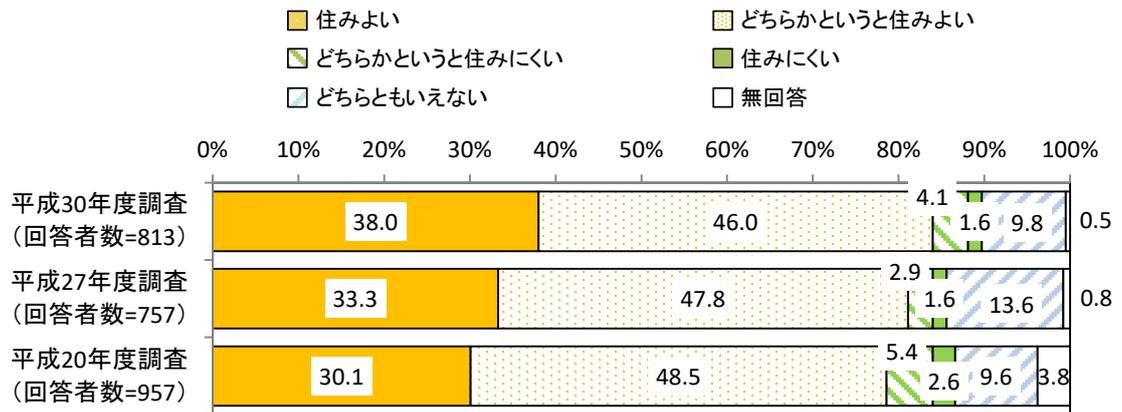


2) 斑鳩町の暮らしやすさ

① 斑鳩町の住みごころ

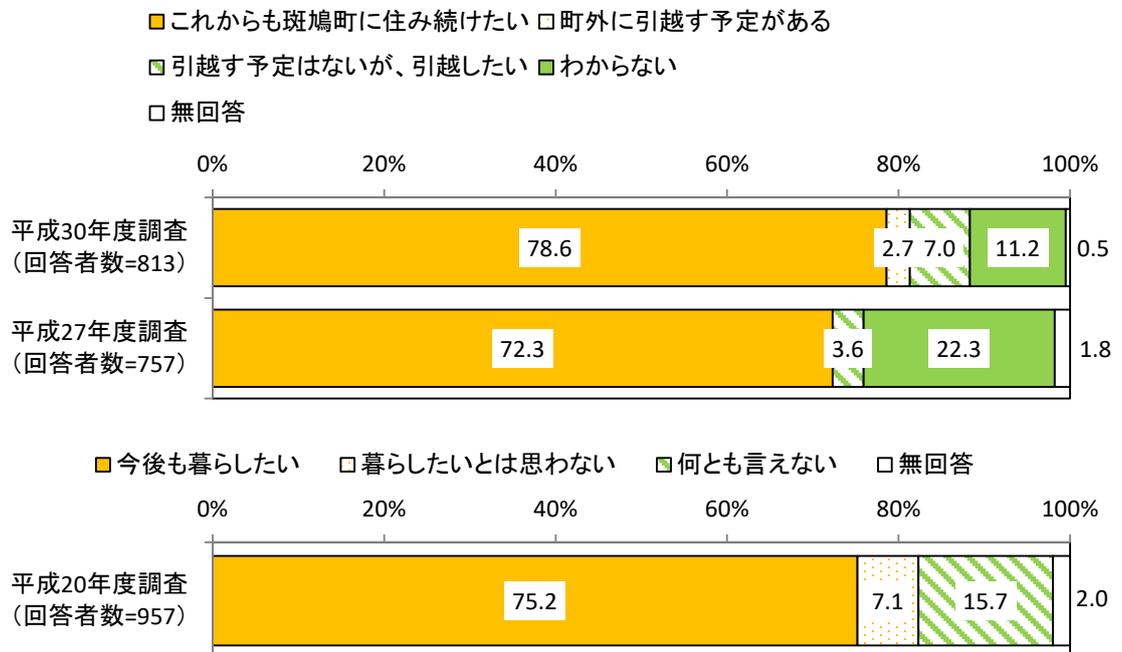
「どちらかというに住みよい」の割合が46.0%と最も高く、次いで「住みよい」の割合が38.0%となっています。

「住みよい」「どちらかというに住みよい」を合わせると、84%となり、平成20年度調査や平成27年度調査より、改善しています。



② 今後の居留意向

「これからも斑鳩町に住み続けたい」の割合が78.6%と最も高く、平成27年度調査と比較すると、「これからも斑鳩町に住み続けたい」の割合が増加しています。



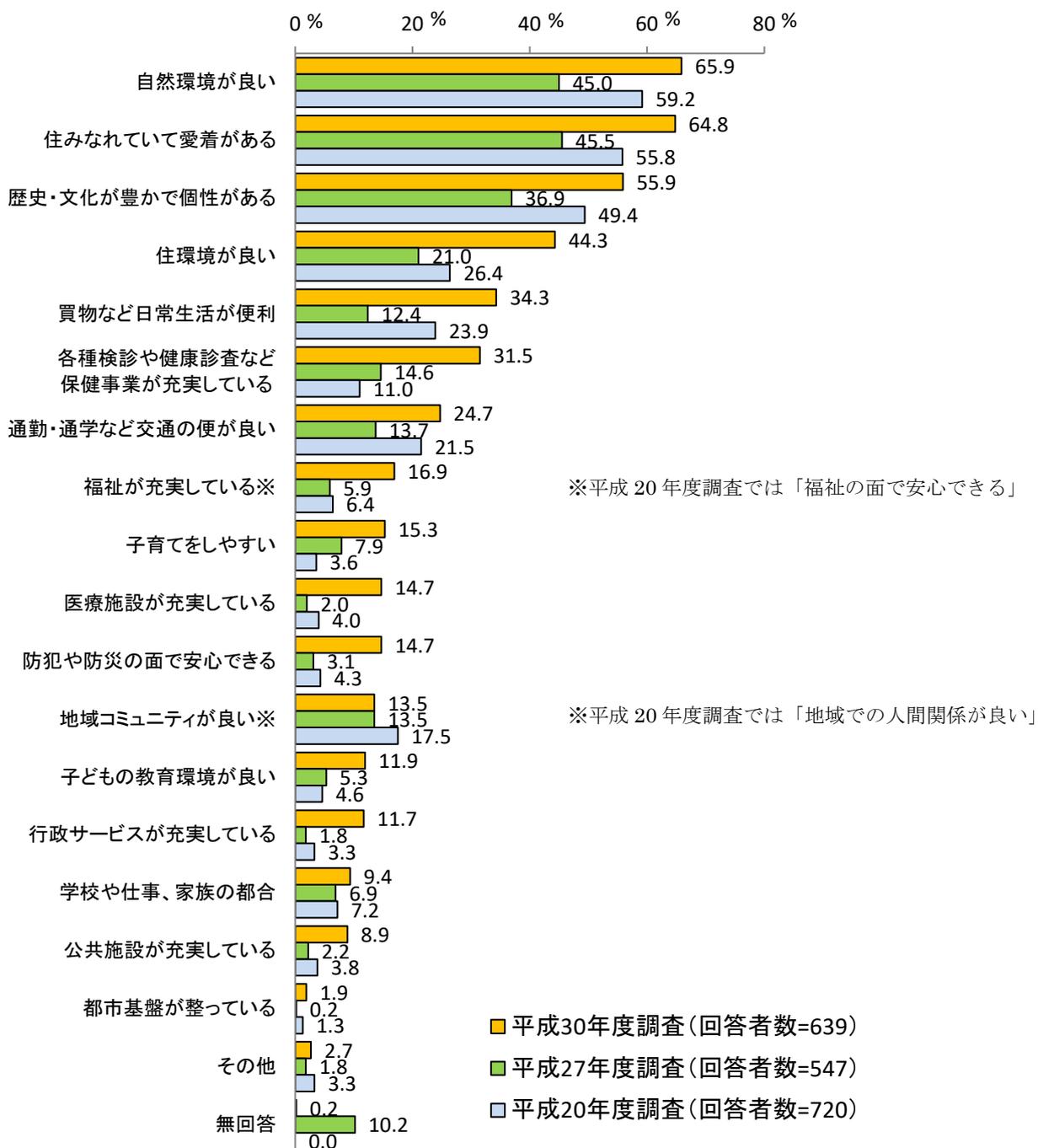
③ 今後も暮らしたい理由

「自然環境が良い」の割合が65.9%と最も高く、次いで「住みなれていて愛着がある」の割合が64.8%、「歴史・文化が豊かで個性がある」の割合が55.9%となっています。

【複数回答】

平成30年度調査では、あてはまるものすべてに○

平成27年度調査、平成20年度調査では、3つまで○



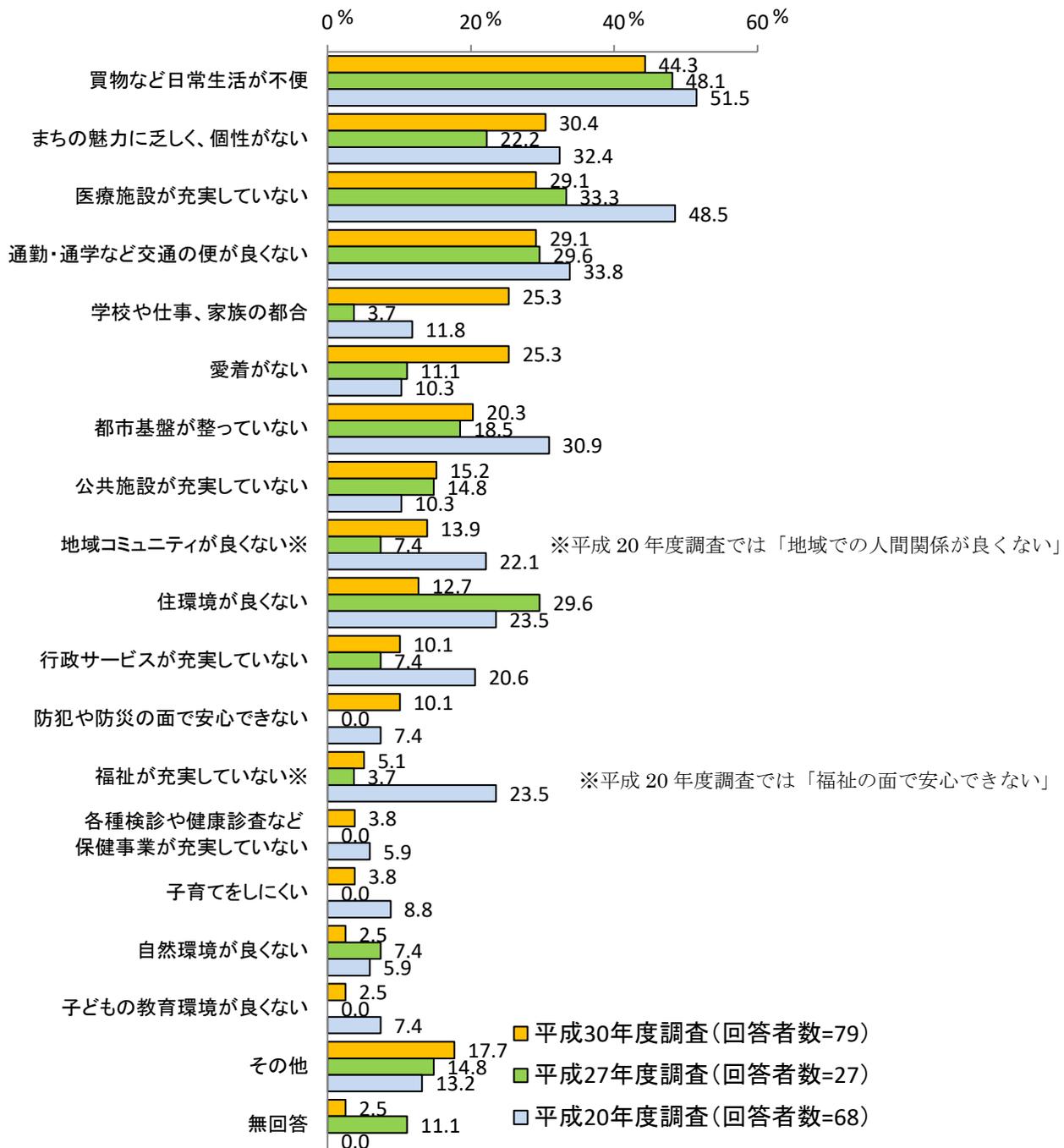
④ 引越す・引越したい理由（平成20年度調査では暮らしたくない理由）

「買物など日常生活が不便」の割合が44.3%と最も高く、次いで「まちの魅力に乏しく、個性がない」の割合が30.4%、「医療施設が充実していない」、「通勤・通学など交通の便が良くない」の割合が29.1%となっています。

【複数回答】

平成30年度調査では、あてはまるものすべてに○

平成27年度調査、平成20年度調査では、3つまで○



3) 日頃の意識や日常生活について

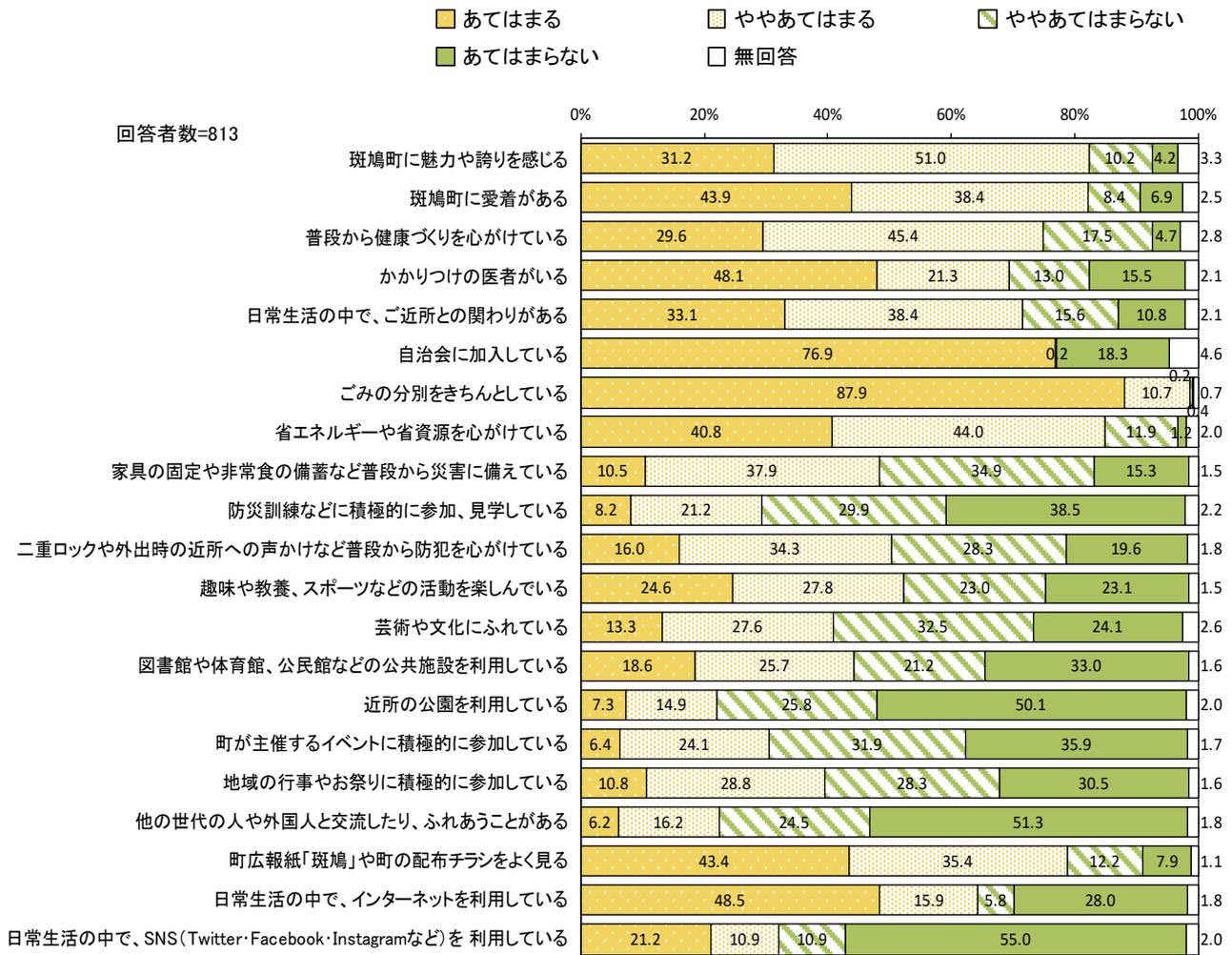
各項目で「あてはまる」、「ややあてはまる」、「ややあてはまらない」、「あてはまらない」の四者択一方式で尋ねたところ、以下のとおりとなっています。

「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が高いもの。

1. 「ごみの分別をきちんとしている」
2. 「省エネルギーや省資源を心がけている」
3. 「斑鳩町に愛着がある」
4. 「斑鳩町に魅力や誇りを感じる」
5. 「町広報紙「斑鳩—いかるが」や町の配布チラシをよく見る」

「あてはまらない」と「ややあてはまらない」をあわせた“あてはまらない”の割合が高いもの。

1. 「近所の公園を利用している」
2. 「他の世代の人や外国人と交流したり、ふれあうことがある」
3. 「防災訓練などに積極的に参加、見学している」
4. 「町が主催するイベントに積極的に参加している」
5. 「日常生活の中で、SNS（twitter・Facebook・Instagramなど）を利用している」



4) 斑鳩町の施策に関する満足度と重要度について

＜ポートフォリオ*による分析＞

斑鳩町の施策に関する各項目の満足度および重要度について、下記の方法により5段階の得点をつけ、平均得点を算出した。この評点を指標として、満足度と重要度の分析を行った。なお、平均得点は、3点に近いほど満足度または重要度が高いことを示し、逆に-3点に近いほど満足度が低い（不満度が高い）、または重要度が低いことを示している。

【満足度・重要度の平均得点の算出方法】

現在の満足度	今後の重要度	得点（評点）
満足	高い	3点
やや満足	やや高い	2点
ふつう	ふつう	1点
やや不満	やや低い	-2点
不満	低い	-3点
無回答	無回答	除 外

■ 施策に対する満足度と重要度の評価

斑鳩町の施策に対する住民の満足度の平均得点を横軸、重要度の平均得点を縦軸として散布図を作成し、施策の優先度を示している。

満足度と重要度の評価（施策の優先度） トップ10

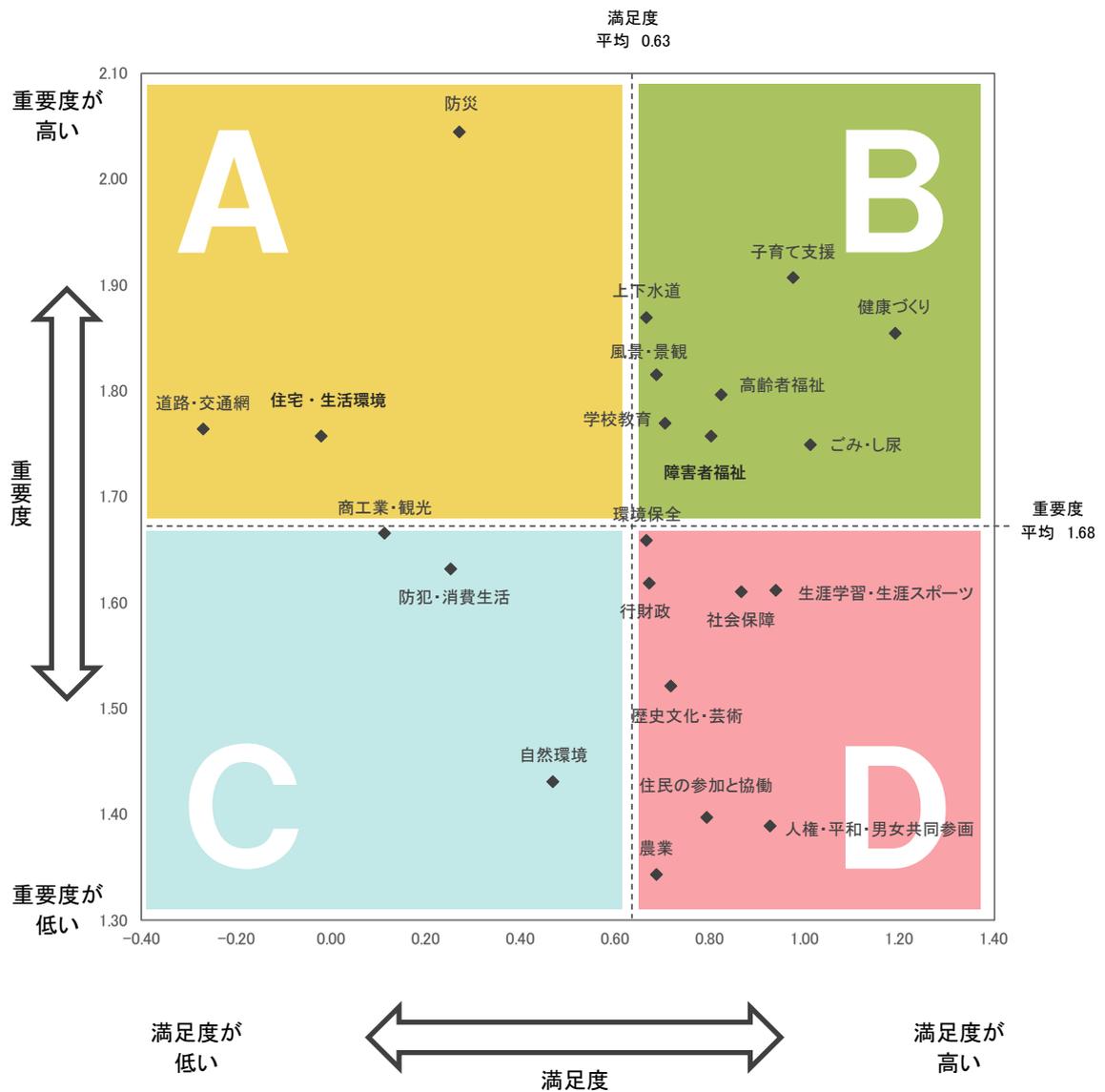
順位	施策項目	優先度※	満足度	重要度
1	道路・交通網	2.03	-0.27	1.76
2	住宅・生活環境	1.78	-0.02	1.76
2	防災	1.78	0.27	2.05
4	商工業・観光	1.56	0.11	1.67
5	防犯・消費生活	1.38	0.25	1.63
6	上下水道	1.20	0.67	1.87
7	風景・景観	1.13	0.69	1.82
8	学校教育	1.06	0.71	1.77
9	環境保全	0.99	0.67	1.66
10	高齢者福祉	0.98	0.82	1.80

※優先度＝重要度の得点から満足度の得点を引いたもの

① 優先度の高い施策

現在、町が取り組んでいる各種施策についての、住民の現在の満足度と今後の重要度についての評価結果をみると、特に問題となる「重要度は高いが満足度が低い」施策については、「道路・交通網」「住宅・生活環境」「防災」「商工業・観光」「防犯・消費生活」が上位となっており、「道路・交通網」施策が最も優先度の高い施策となります。

斑鳩町の施策に関する満足度および重要度のポートフォリオ *



② 「道路・交通網」施策の満足度および重要度

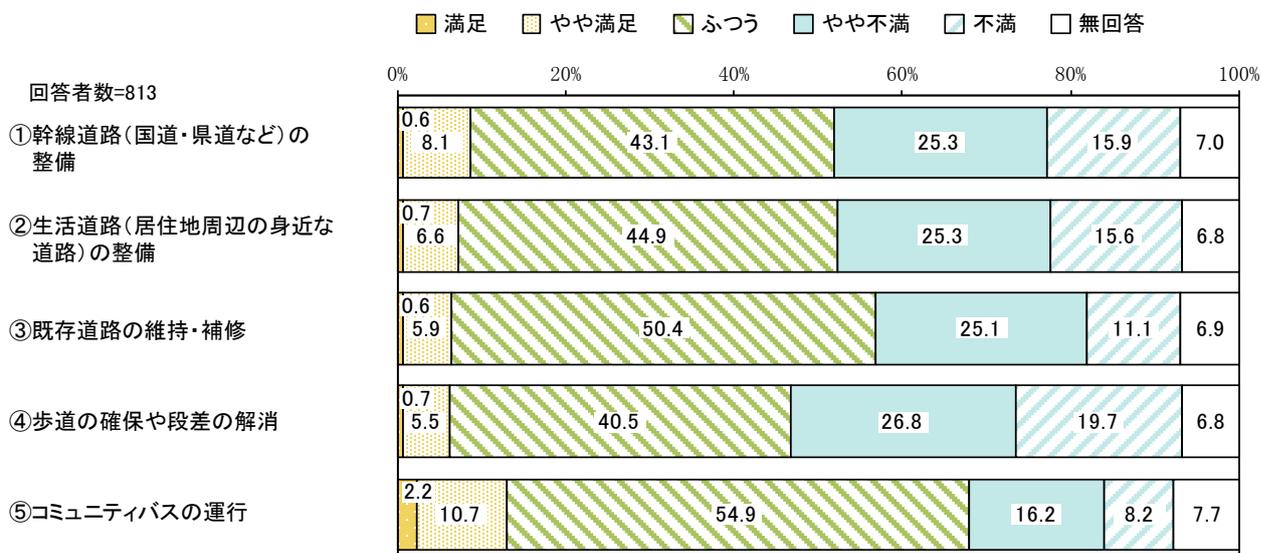
満足度においては、いずれも「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合よりも高くなっています。

重要度においては、⑤コミュニティバスの運行で「高い」と「やや高い」をあわせた“高い”の割合がその他の項目と比べ低くなっています。

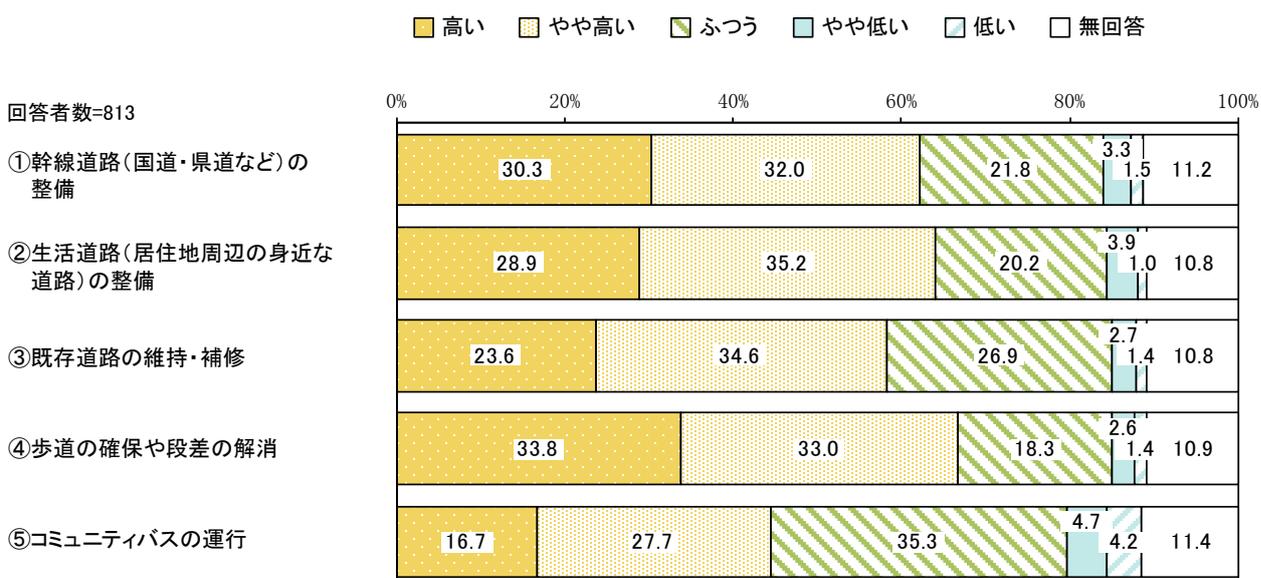
「道路・交通網」施策では、生活道路の整備や歩道・交通安全施設の整備が求められています。

「道路・交通網」施策の満足度および重要度

<満足度>



<重要度>



③ 「住宅・生活環境」施策の満足度および重要度

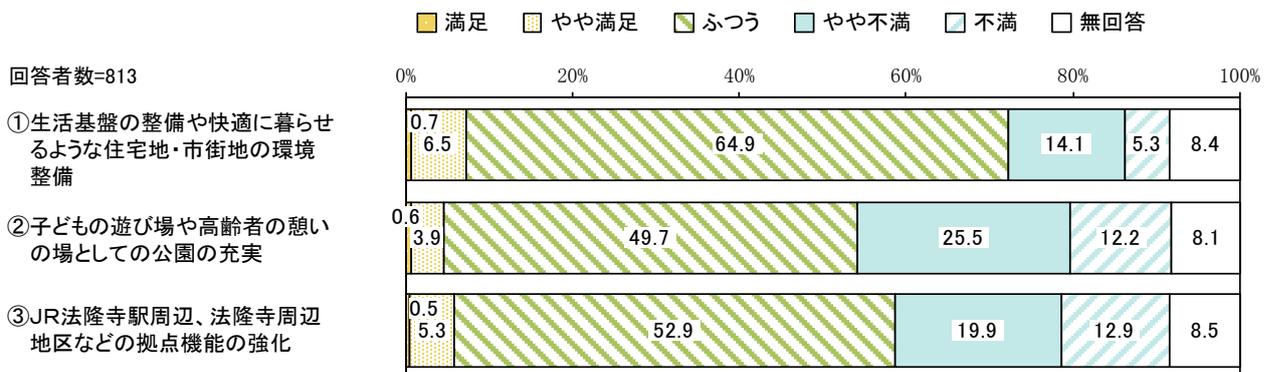
満足度においては、②子どもの遊び場や高齢者の憩いの場としての公園の充実、③JR法隆寺駅周辺、法隆寺周辺地区などの拠点機能の強化で「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が、①生活基盤の整備や快適に暮らせるような住宅地・市街地の環境整備での“不満”の割合よりも高くなっています。

重要度においては、すべての項目で「高い」と「やや高い」をあわせた“高い”の割合が50%を超えています。

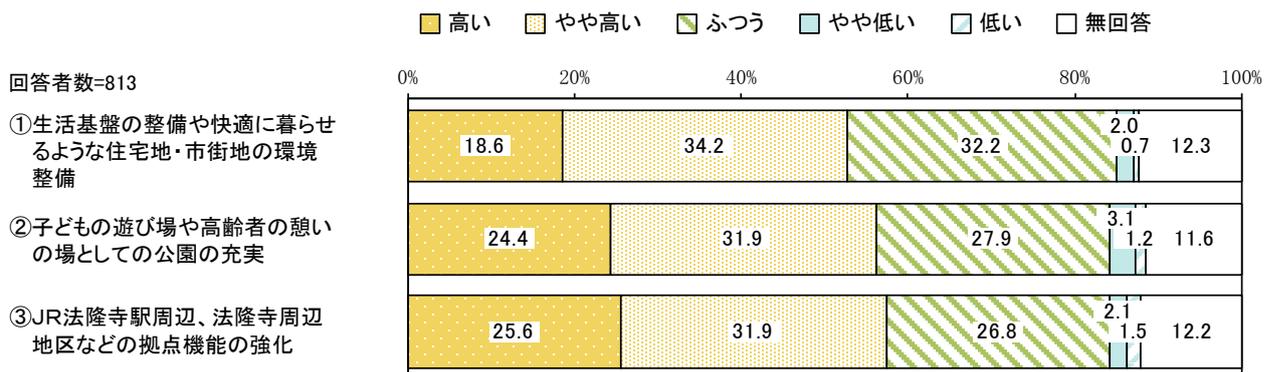
「住宅・生活環境」施策では、公園の充実やJR法隆寺駅周辺、法隆寺周辺地区などの拠点機能の強化が求められています。

「住宅・生活環境」施策の満足度および重要度

<満足度>



<重要度>



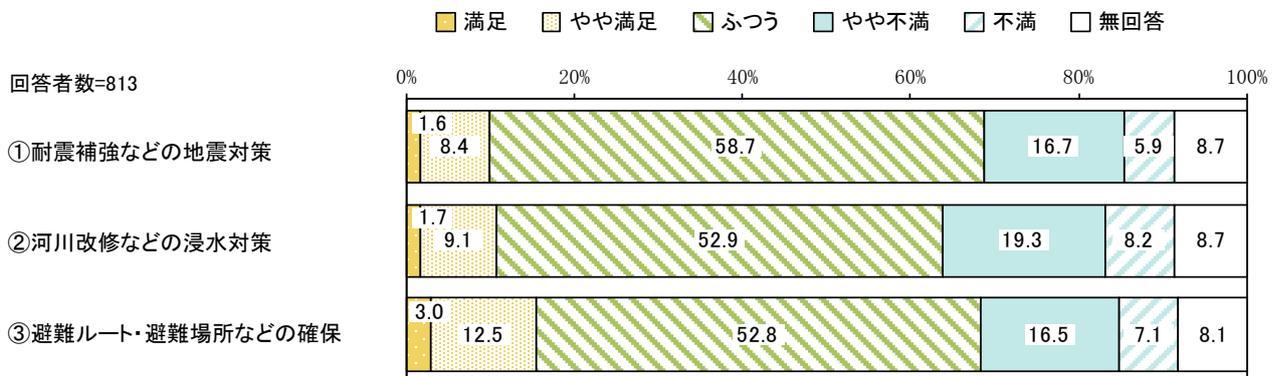
④ 「防災」施策の満足度および重要度

満足度においては、いずれも「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合よりも高くなっています。

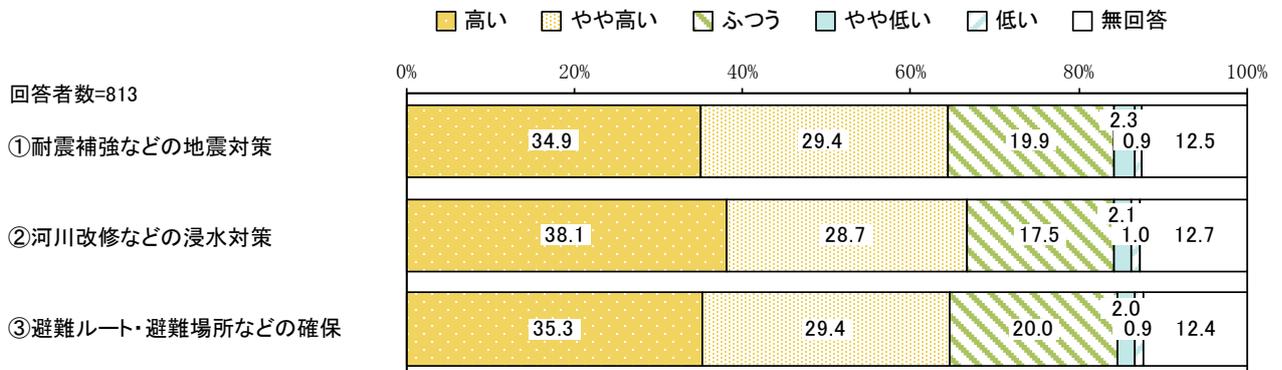
重要度においては、浸水対策、地震対策、避難場所などの確保いずれも「高い」と「やや高い」をあわせた“高い”の割合が60%以上と高くなっており、住民の関心が高いことがうかがえます。

「防災」施策の満足度および重要度

<満足度>



<重要度>



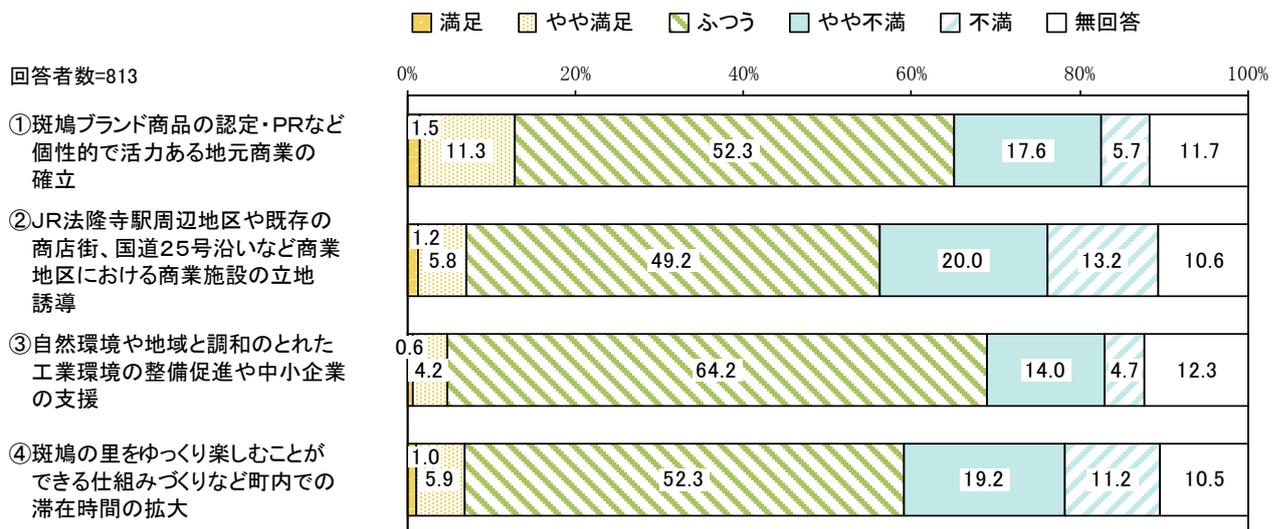
⑤ 「商工業・観光」施策の満足度および重要度

満足度においては、②JR法隆寺駅周辺地区や既存の商店街、国道25号沿いなど商業地区における商業施設の立地誘導、④斑鳩の里をゆっくり楽しむことができる仕組みづくりなど、町内での滞在時間の拡大で「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が、他の項目よりも高くなっています。

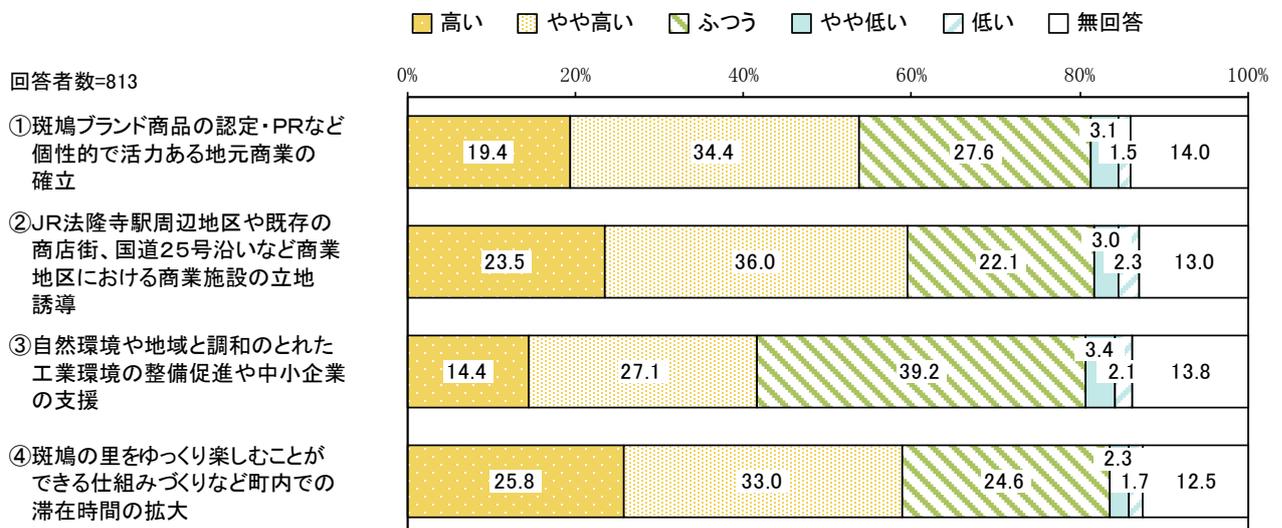
重要度においては、①斑鳩ブランド商品の認定・PRなど个性的で活力ある地元商業の確立、②JR法隆寺駅周辺地区や既存の商店街、国道25号沿いなど商業地区における商業施設の立地誘導、④斑鳩の里をゆっくり楽しむことができる仕組みづくりなど町内での滞在時間の拡大で「高い」と「やや高い」をあわせた“高い”の割合が、③自然環境や地域と調和のとれた工業環境の整備促進や中小企業の支援よりも高くなっています。

「商工業・観光」施策の満足度および重要度

<満足度>



<重要度>



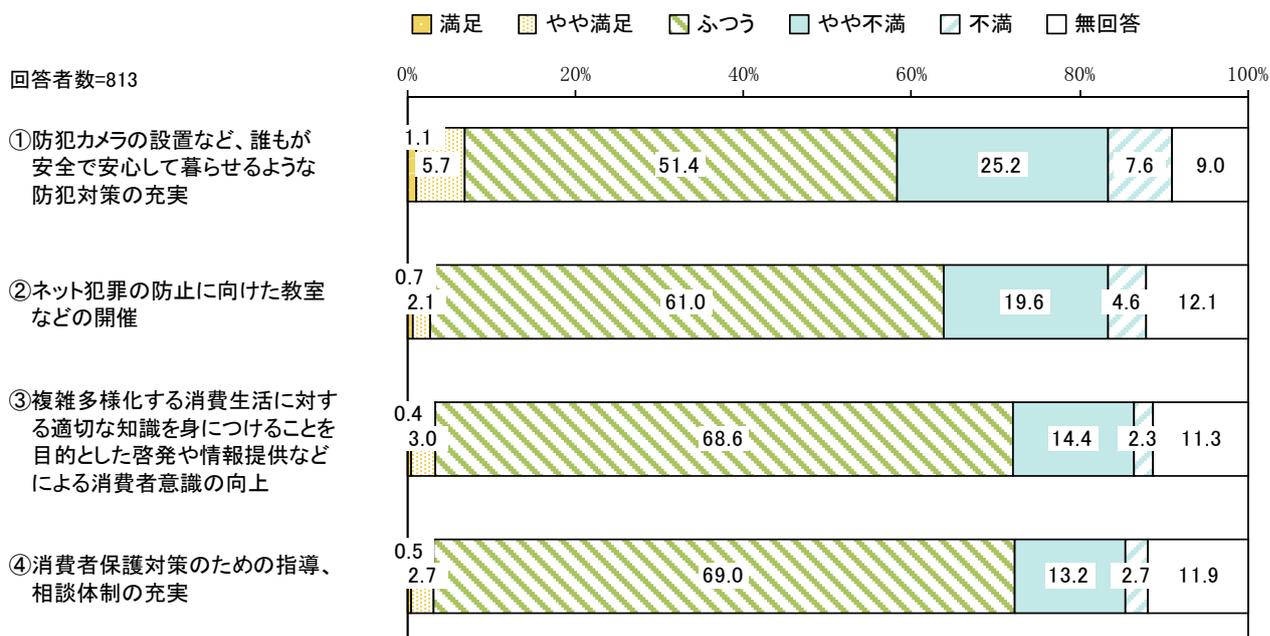
⑥ 「防犯・消費生活」施策の満足度および重要度

満足度においては、①防犯カメラの設置など、誰もが安全で安心して暮らせるような防犯対策の充実で「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が、他の項目よりも高くなっています。

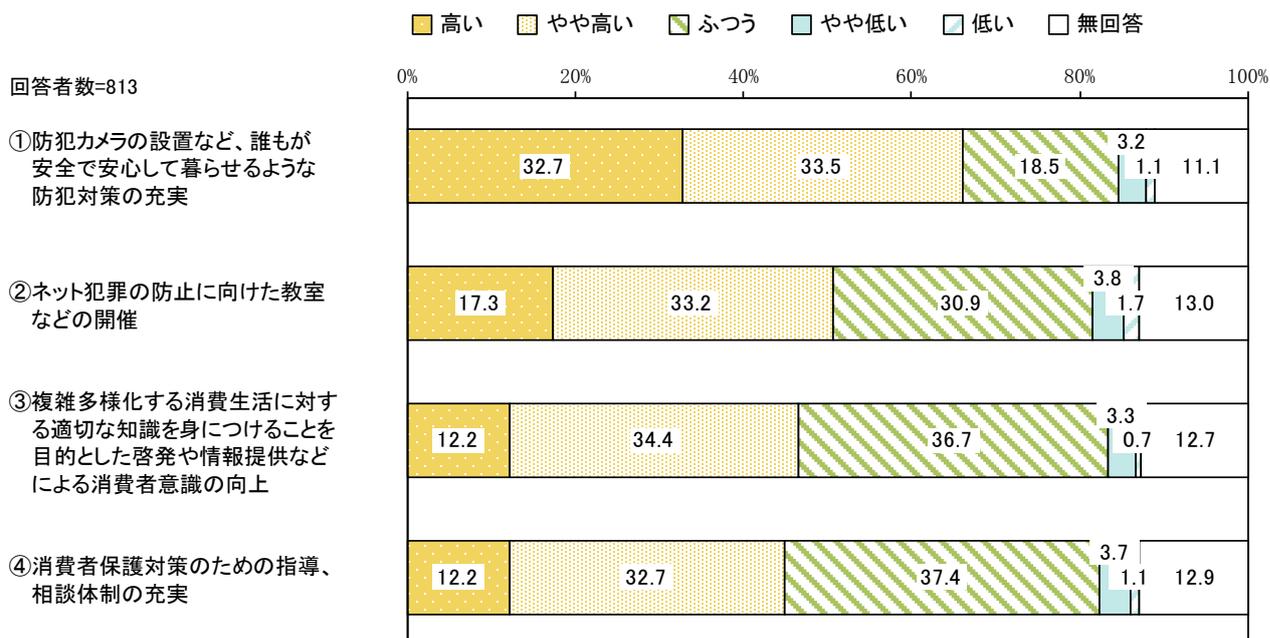
重要度においては、①防犯カメラの設置など、誰もが安全で安心して暮らせるような防犯対策の充実が、他の項目よりも高くなっています。

「防犯・消費生活」施策の満足度および重要度

<満足度>



<重要度>



⑦ 「上下水道」施策の満足度および重要度

満足度においては、いずれも「ふつう」の割合が最も高くなっています。②都市下水路*の更新・改修や③公共下水道整備の推進は、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”よりも「やや不満」と「不満」を合わせた“不満”の割合が高くなっています。

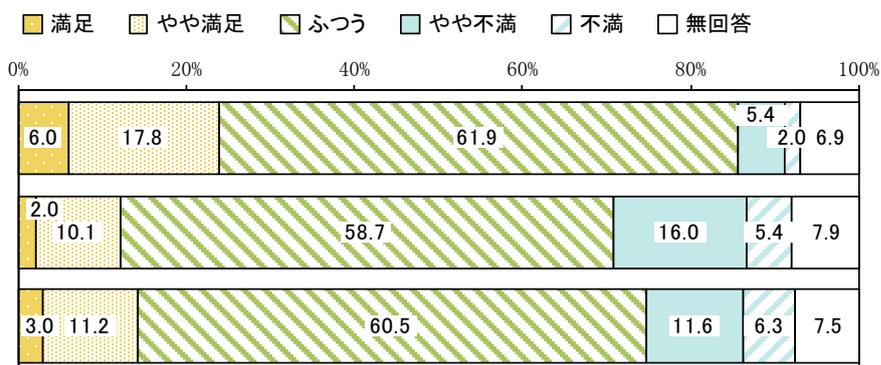
重要度においては、いずれも「高い」と「やや高い」をあわせた“高い”の割合が高くなっています。

「上下水道」施策の満足度および重要度

<満足度>

回答者数=813

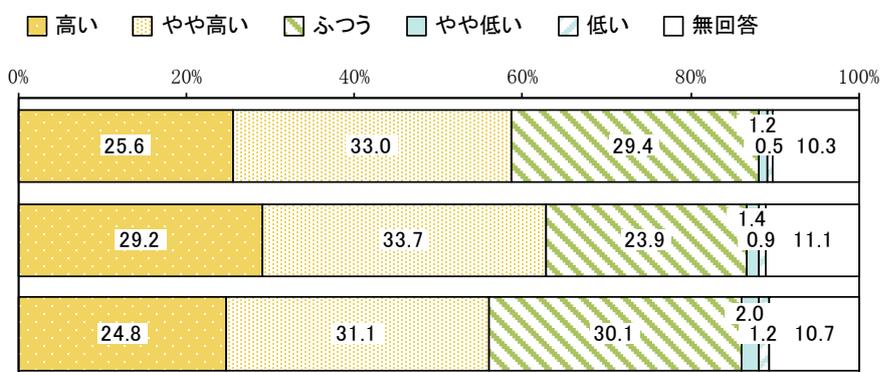
- ①良質な水の安定供給のための水源確保と水道施設の整備や更新
- ②市街地や住宅地の都市下水路の更新・改修や集中豪雨に対する浸水対策の推進
- ③計画的かつ効率的な公共下水道整備の推進



<重要度>

回答者数=813

- ①良質な水の安定供給のための水源確保と水道施設の整備や更新
- ②市街地や住宅地の都市下水路の更新・改修や集中豪雨に対する浸水対策の推進
- ③計画的かつ効率的な公共下水道整備の推進

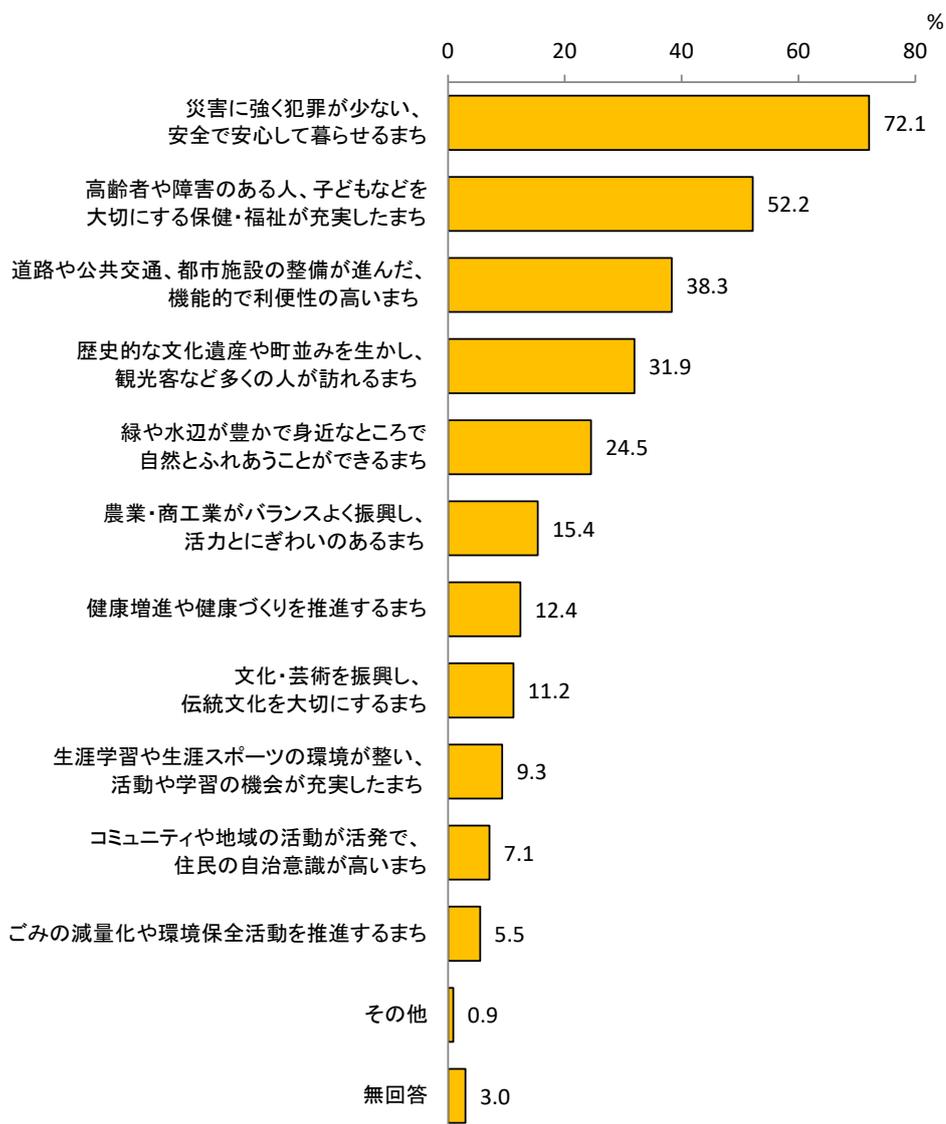


5) 斑鳩町の将来像について

将来の斑鳩町がどのような「まち」であってほしいと思うか尋ねたところ、「災害に強く犯罪が少ない、安全で安心して暮らせるまち」の割合が72.1%と最も高く、次いで「高齢者や障害のある人、子どもなどを大切にする保健・福祉が充実したまち」の割合が52.2%、「道路や公共交通、都市施設の整備が進んだ、機能的で利便性の高いまち」の割合が38.3%となっています。

【複数回答】

回答者数=813



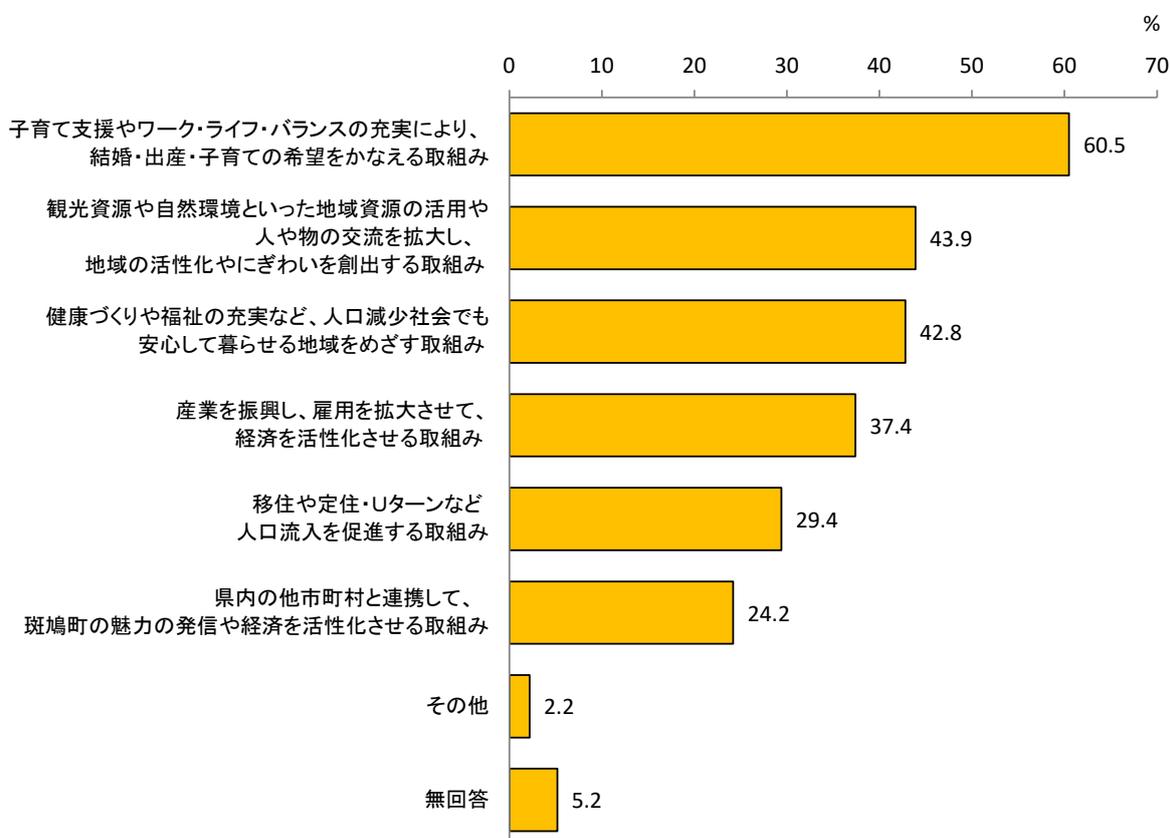
6) 地方創生の取組みについて

① 人口減少

人口減少を克服し活力ある社会をめざして、どのようなことに特に力を入れるべきか尋ねたところ、「子育て支援やワーク・ライフ・バランスの充実により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組み」の割合が60.5%と最も高く、次いで「観光資源や自然環境といった地域資源の活用や人や物の交流を拡大し、地域の活性化やにぎわいを創出する取組み」の割合が43.9%、「健康づくりや福祉の充実など、人口減少社会でも安心して暮らせる地域をめざす取組み」の割合が42.8%となっています。

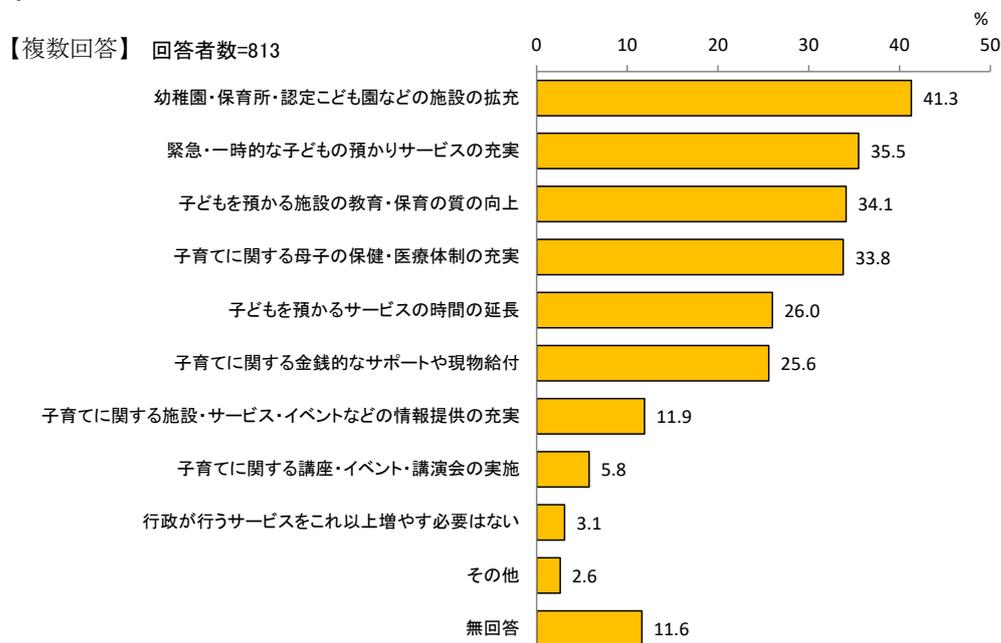
【複数回答】

回答者数=813



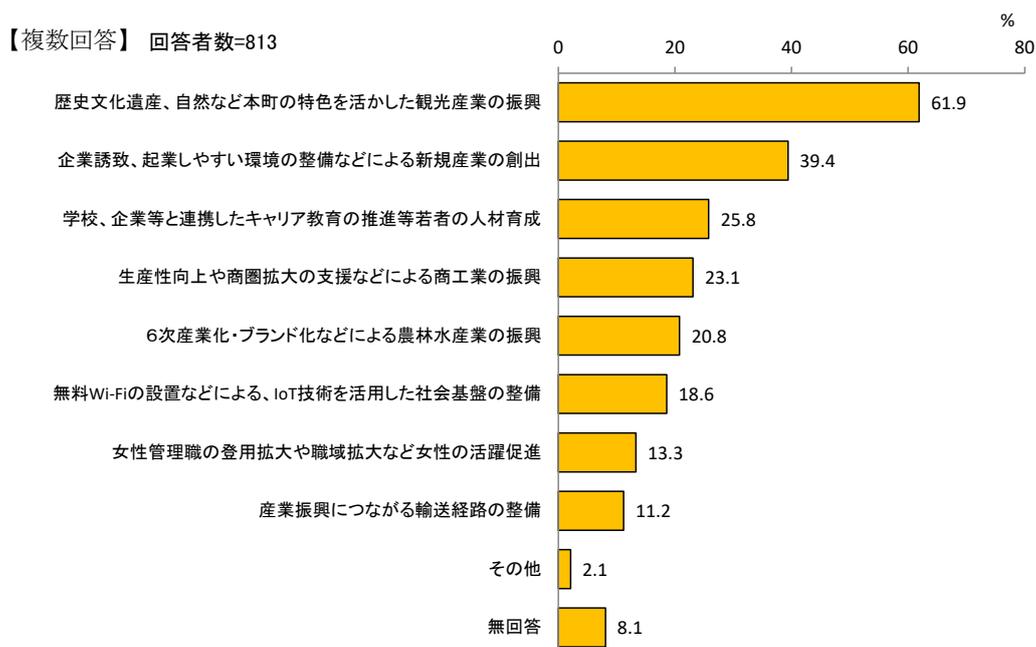
② 出産・育児

出産・育児に関するサービスとして、どのようなことに力を入れるべきか尋ねたところ、「幼稚園・保育所・認定こども園などの施設の拡充」の割合が41.3%と最も高くなっています。



③ 地域経済

地域経済の活性化をはかるために、どのようなことに力を入れるべきか尋ねたところ、「歴史文化遺産、自然など本町の特色を活かした観光産業の振興」の割合が61.9%と最も高く、次いで「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」の割合が39.4%、「学校、企業等と連携したキャリア教育の推進など若者の人材育成」の割合が25.8%となっています。



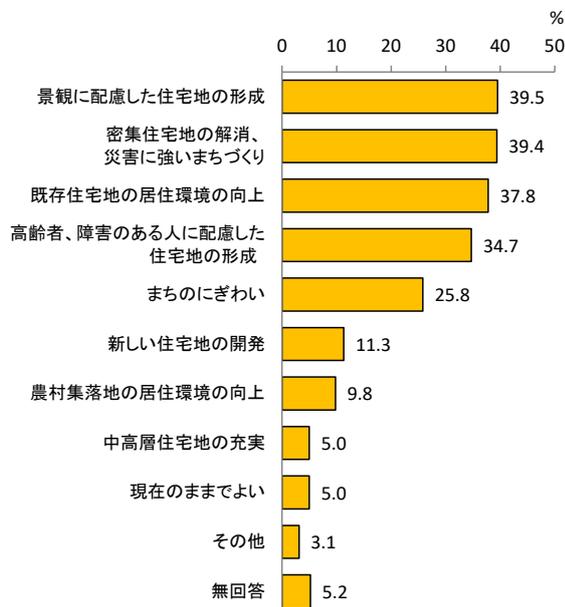
7) 都市計画等について

① 都市計画の今後の取組み

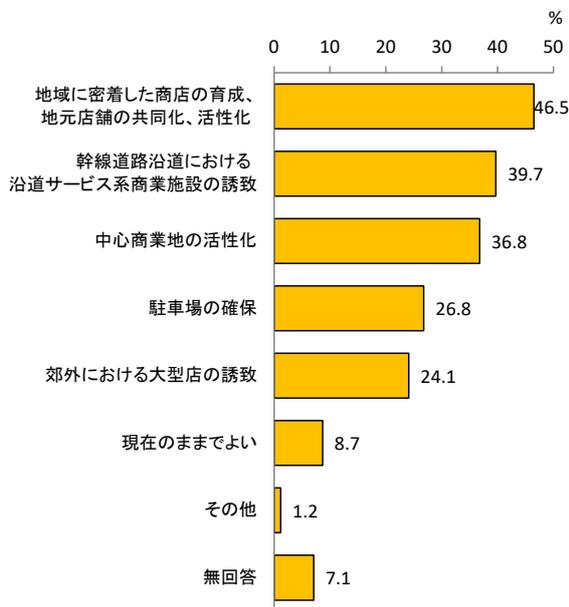
都市計画等の今後の取組みについて、いずれの項目でも「現在のままでよい」とする回答は少なく、まちづくりにおいて何らかの改善が求められています。特に、道路・交通における「生活道路の整備」「歩道や交通安全施設（照明、ミラーなど）の整備」、公園・緑地*等における「公園や子どもの遊び場の整備」、幹線道路沿道の土地利用における「商業系施設などの誘致」において割合が高くなっており、身近な生活における歩行環境の充実や公園、商業系施設の整備など、生活の安全や利便性の向上につながる取り組みが求められています。

斑鳩町のまちづくりの各分野において重要だと思うこと

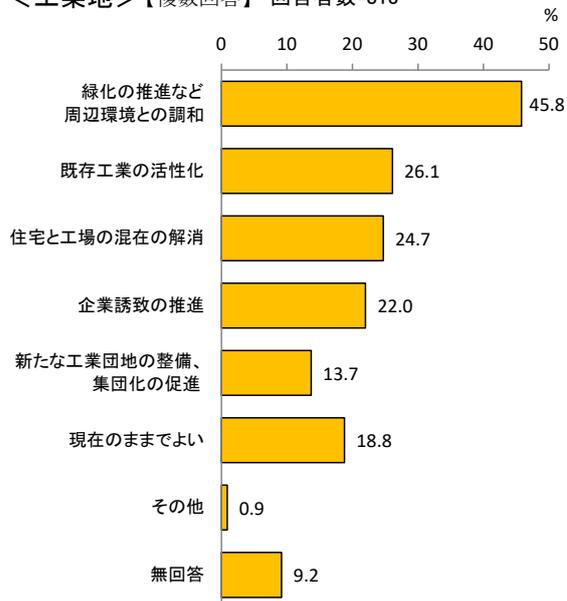
<住宅地>【複数回答】 回答者数=813



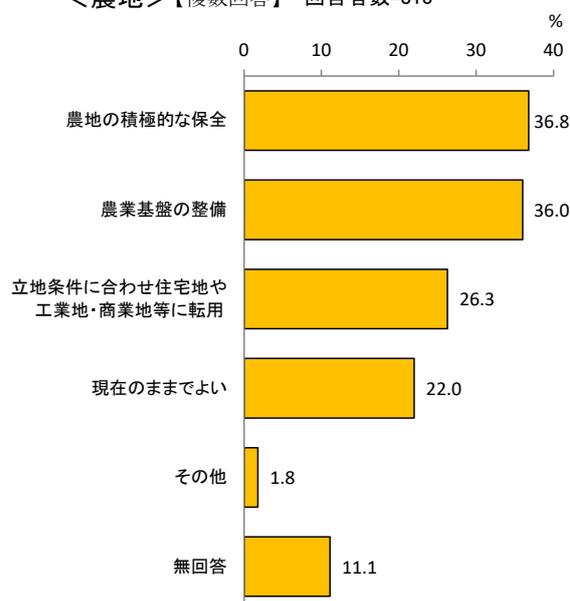
<商業地>【複数回答】 回答者数=813



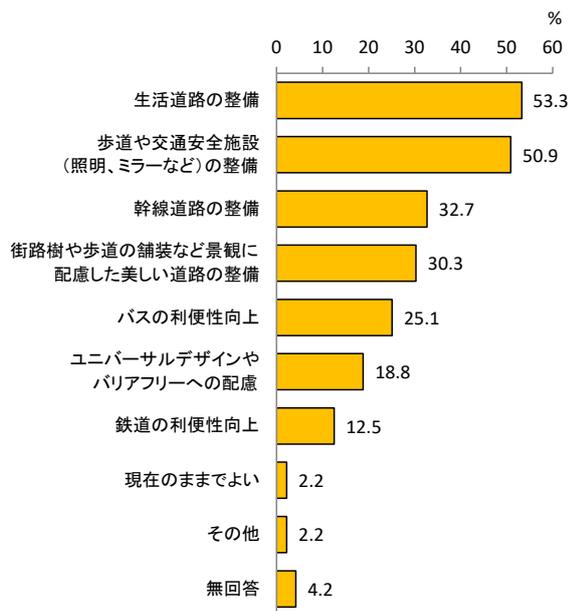
<工業地>【複数回答】 回答者数=813



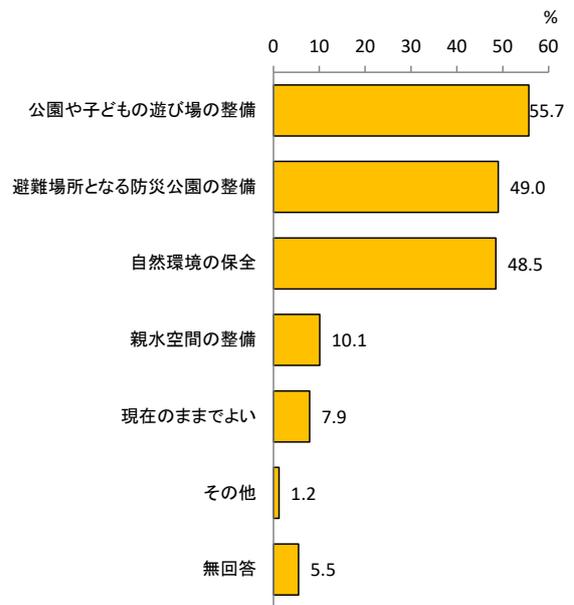
<農地>【複数回答】 回答者数=813



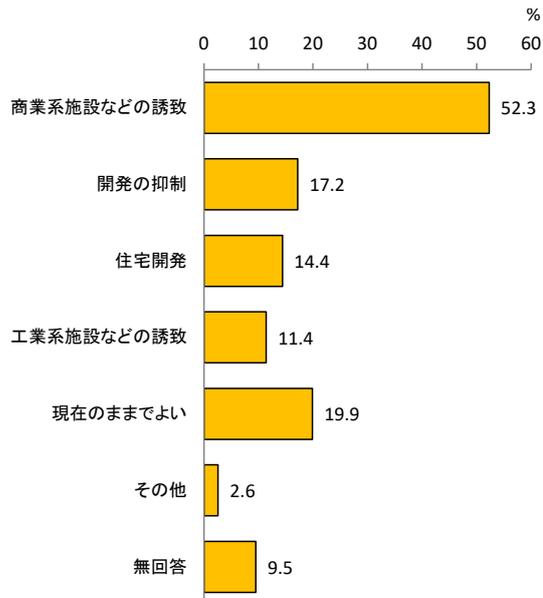
<道路・交通>【複数回答】 回答者数=813



<公園・緑地*等>【複数回答】 回答者数=813



<幹線道路沿道の土地利用>【複数回答】 回答者数=813



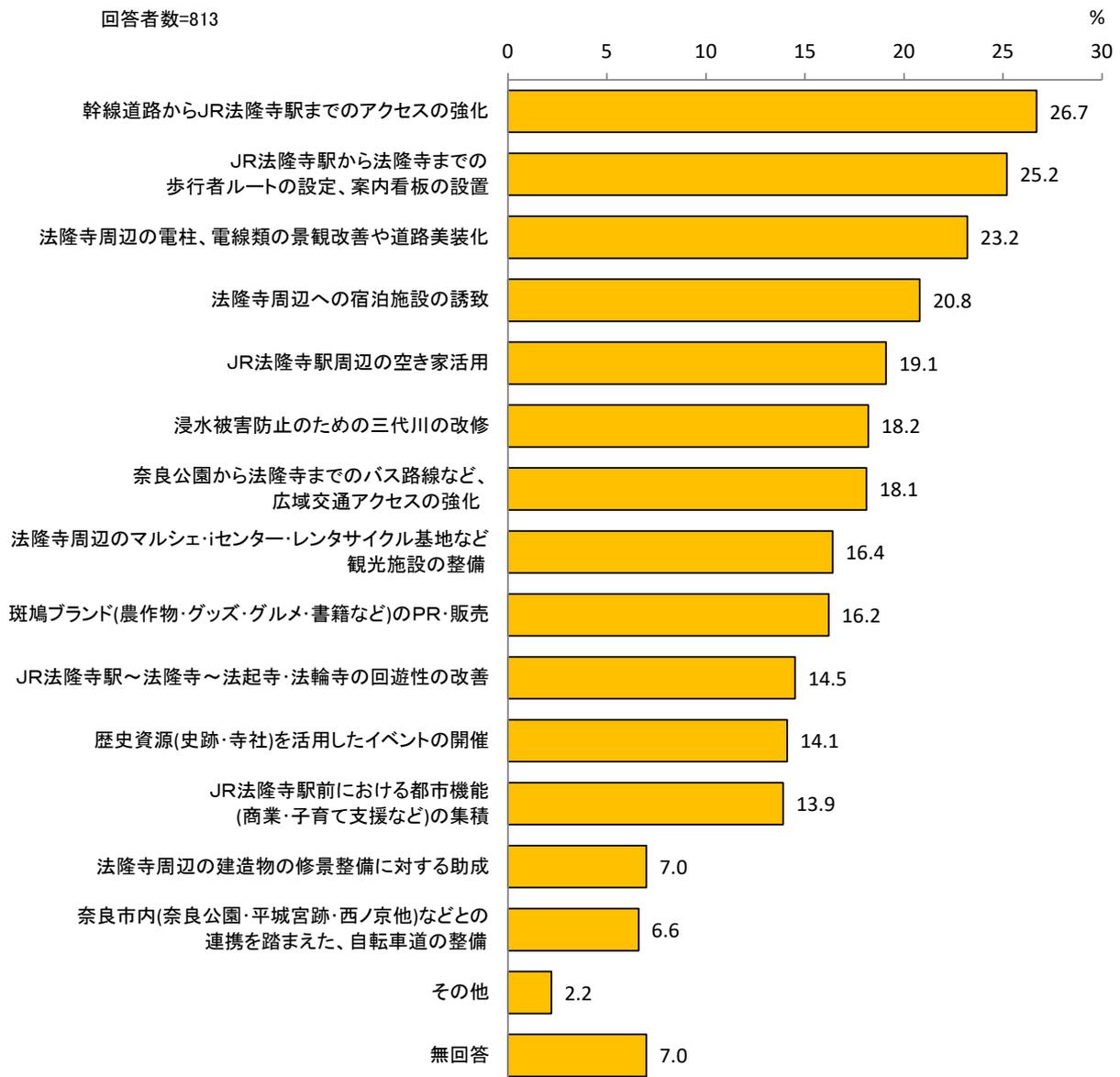
② 法隆寺周辺やJR法隆寺駅周辺地区のまちづくり

法隆寺周辺やJR法隆寺駅周辺地区のまちづくりについては、「幹線道路からJR法隆寺駅までのアクセスの強化」や「JR法隆寺駅から法隆寺までの歩行者ルートの設定、案内看板の設置」などの割合が高く、交通アクセスの強化や歩行環境の充実が求められています。

法隆寺周辺やJR法隆寺駅周辺地区のまちづくりにおいて力を入れるべきこと

【複数回答】

回答者数=813



(3) 調査結果の総括

1) 斑鳩町の暮らしやすさの評価は高く、定住意向も強い

町への住みやすさの評価は、「住みよい」と「どちらかということ住みよい」をあわせた“住みよい”の割合が84.0%と、平成20年度調査や平成27年度調査より改善し、大半の住民が“住みよい”と評価しています。

また、「これからも斑鳩町に住み続けたい」の割合が78.6%と、平成20年度調査や平成27年度調査より増加しており、定住意向が高まっていることがうかがえます。

住民の多くは、斑鳩町は住みやすく今後もこの町に住み続けたいという考えを持っており、平成20年度調査や平成27年度調査よりさらに高まっています。

一方で、今後の居留意向について約1割の方は「引越す予定がある」「引越したい」と回答しており、引越す・引越したい理由は買物など日常生活が不便であるという回答が多く、より定住性を高めるためには、生活の利便性を向上させていくことが課題となります。

2) 日頃の意識や日常生活については、災害に関する取組みなどにおいて見直しも必要

生活全般をとおしてみると、「防災訓練などへの参加」、「近所の公園の利用」、「他の世代や外国人との交流やふれあい」といったものは、住民の利用・取組みが低く、生活の中で十分に機能していない面が見られます。

特に、「防災訓練などへの参加」など防災関係の項目での参加や備えの状況が低いことから、参加しやすいあり方を検討するなど、防災意識の高まりが具体的な行動につながるよう支援していくことが必要です。

また、「近所の公園の利用」、「他の世代や外国人との交流やふれあい」といった項目については、本町において既存の施設やすでに実施している事業があるものの、アンケート結果としては利用・取組みが低いことから、住民目線からの利用のしやすさや、公的支援のあり方などの見直しの検討が必要になります。

3) 斑鳩町の取組みについては、「道路・交通網」施策が最も優先度の高い施策

現在町が取り組んでいる各種施策についての、住民の現在の満足度の評価結果について、満足度が高いのは、「健康づくり」「ごみ・し尿」「子育て支援」「生涯学習・生涯スポーツ」「人権・平和・男女共同参画」等にかかわる項目となっています。

一方、満足度が低いのは、「道路・交通網」「住宅・生活環境」「商工業・観光」「防犯・消費生活」「防災」等にかかわる項目となっています。

特に問題となる「重要度は高いが満足度が低い」施策については、「道路・交通網」「住宅・生活環境」「防災」「商工業・観光」「防犯・消費生活」が上位となっており、「道路・交通網」施策が最も優先度の高い施策となります。

「道路・交通網」施策では、生活道路の整備や歩道・交通安全施設の整備が求められています。

「住宅・生活環境」施策では、公園の充実やJR法隆寺駅周辺、法隆寺周辺地区などの拠点機能の強化が求められています。

「防災」では浸水対策や地震対策、避難場所などの確保、「商工業・観光」では商業地区における商業施設の立地誘導や町内での滞在時間の拡大、「防犯・消費生活」では防犯対策の充実が求められています。

4) 町の将来像については、犯罪や災害などに対する安全・安心の強化とともに、保健・福祉の充実が求められている

住民が望む町の将来像は、「災害に強く犯罪が少ない、安全で安心して暮らせるまち」が最も高く、次いで「高齢者や障害のある人、子どもなどを大切にする保健・福祉が充実したまち」「道路や公共交通、都市施設の整備が進んだ、機能的で利便性の高いまち」となっています。防災面では、特に河川改修などの浸水対策が求められています。

平成27年度調査より「災害に強く犯罪が少ない、安全で安心して暮らせるまち」「高齢者や障害のある人、子どもなどを大切にする保健・福祉が充実したまち」を望む声が高く、防犯・防災面と福祉の面で安全・安心に暮らせるまちが一層求められています。

5) 人口減少の克服にむけた取組みとして、子育て世代への支援、特に子どもを預ける場の充実が求められている

人口減少の克服にむけて力を入れるべきことについては「子育て支援やワーク・ライフ・バランスの充実により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組み」の項目が最も高く、子育て世代への支援が重要であると考えていることがうかがえます。

また、出産・育児に関するサービスで力を入れるべきことでは、「幼稚園・保育所・認定こども園などの施設の拡充」「緊急・一時的な子どもの預かりサービスの充実」「子どもを預かる施設の教育・保育の質の向上」などの割合が高く、全国的に共働き世帯が増えている中、子どもを預ける場の質・量両面からの充実が求められています。

地域経済の活性化のため力を入れるべきことでは、「歴史文化遺産、自然など本町の特色を活かした観光産業の振興」が他の項目に比べ突出して高く、町の特色である歴史文化遺産を活かした観光産業を更に振興していくことが求められています。

6) まちづくりにおいて歩行環境の充実や公園、商業系施設の整備など生活の安全や利便性の向上につながる取組みが求められている

都市計画等の今後の取組みについて、いずれの項目でも「現在のままでよい」とする回答は少なく、まちづくりにおいて何らかの改善が求められています。特に、道路・交通における「生活道路の整備」「歩道や交通安全施設（照明、ミラーなど）の整備」、公園・緑地*等における「公園や子どもの遊び場の整備」、幹線道路沿道の土地利用における「商業系施設などの誘致」において割合が高くなっており、生活の安全や利便性の向上につながる取組みが求められています。

法隆寺周辺やJR法隆寺駅周辺地区のまちづくりについては、「幹線道路からJR法隆寺駅までのアクセスの強化」や「JR法隆寺駅から法隆寺までの歩行者ルートの設定、案内看板の設置」などの割合が高く、交通アクセスの強化や歩行環境の充実が求められています。

3. 都市づくりの課題

斑鳩町の現状や住民意向調査結果、関連計画の動向などをふまえ、今後の斑鳩町の都市づくりの課題を次のとおり抽出します。

(1) 利便性、安全性、快適性の高い身近な生活環境の整備

- 幹線道路沿道の土地利用においては、商業系施設などの誘致を求める声が多く、生活の利便性の向上につながる取り組みが求められています。
- 大地震や集中豪雨などによる災害の危険性が高まるなか、防災対策は住民からも特に重要度の高い取り組みと認識されており、建築物の耐震性の向上や浸水対策、河川改修の促進など都市の防災性の向上が求められています。
- 町が取り組んでいる各種施策のうち、子育て支援の重要度が高く、子育てがしやすく、子育て世代が働きやすいまちづくりが重要となります。
- 公共下水道の未供用区域が残っており、快適なくらしの実現にむけ、引き続き下水道事業を推進していくことが必要です。

(2) 高齢者、障害者等に配慮した移動環境の整備

- 幹線道路や生活道路の整備、歩道の確保などの安全対策が求められているとともに、段差の解消などバリアフリーによる歩行環境の整備が求められています。
- 車依存の進行と高齢者が運転を継続せざるを得ない環境等が課題となるなか、今後高齢者が更に増加していくことから、コミュニティバス等の移動手段の確保が求められています。

(3) 観光の魅力の向上と地域資源の活用

- 法隆寺周辺は、町を代表する歴史的・文化的遺産が集積している地域であり、今後も、電柱類の景観改善や道路の美装化など、歴史的な景観保全が求められています。
- JR法隆寺駅周辺は、住民だけでなく、多くの観光客が訪れる町の玄関口としての機能の充実や幹線道路からの交通アクセスの強化、景観の形成が求められています。
- 法隆寺周辺とJR法隆寺駅周辺を結ぶルートにおいて、来訪者が往来しやすい交通アクセスの強化や歩行環境の充実が求められています。
- 本町に点在する、歴史、自然、文化や生活面における様々な資源を結びつけ、活用していくためにこれらの資源を利用した拠点の整備や周遊観光ルートづくりなどのネットワーク化を充実することが求められています。

(4) 都市機能の充実と景観の保全と活用

- 山林、農地、市街地のバランスのとれた現状の土地利用を維持するため、引き続き山林、農地を保全していくことが求められています。
- 耕作放棄地は引き続き増加傾向にあることから、農地空間の活用や農業施設の整備、担い手の育成などを通じて農地を維持するとともに、田園景観の保全に取り組んでいくことが求められています。
- 時代の潮流として、人口減少社会に対応するコンパクトなまちづくりや空き家対策、既存ストック*の活用等が求められています。
- ポストコロナ*時代を見据えて、感染症に強い社会環境の整備や二地域居住*の促進など「新しい生活様式*」に対応した都市環境との調和が求められています。
- 市街地においては、計画的な市街地整備と都市機能の充実が求められています。

都市づくりの課題

1. 利便性、安全性、快適性の高い身近な生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none">○商業系施設などの誘導による利便性の向上○建築物の耐震性の向上や河川改修などの浸水対策による都市の防災性の向上○子育てがしやすく、働きやすいまちづくり○公共下水道の整備
2. 高齢者、障害者等に配慮した移動環境の整備	<ul style="list-style-type: none">○生活道路の整備や歩道設置など安全対策の推進○バリアフリーによる歩行環境の整備○公共交通の確保と充実
3. 観光の魅力の向上と地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none">○法隆寺周辺の歴史的な景観保全○JR法隆寺駅周辺の機能の充実○JR法隆寺駅周辺、法隆寺周辺の交通アクセスの強化、歩行環境の充実○点在する様々な資源を利用した拠点整備とネットワーク化
4. 都市機能の充実と景観の保全と活用	<ul style="list-style-type: none">○バランスのとれた土地利用の維持○田園景観の保全○農地空間の活用や農業施設の整備など農地の維持○コンパクトなまちづくり、空き家対策、既存ストック*の活用○新しい生活様式*に対応した都市環境との調和○計画的な市街地整備と都市機能の充実